

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会  
議事録

日時：平成 27 年 12 月 16 日（木）10:00～12:00

会場：豊明市商工会館イベントホール

1. あいさつ

（司会）

本日は、名古屋鉄道株式会社 安藤委員の代理で湯浅様、学校法人藤田学園 星長委員の代理で都築様にご出席をいただいている。

<配付資料確認>

（小川委員長）

おはようございます。

・今日で委員会としては3回目である。過去2回の委員会については、人口を増やしていくことが大きなテーマになっていた気がするが、この委員会としては、人を増やしていくためには、まちを住みよくしていく、仕事を作っていくということがあり、それで人が増えるのだという考え方を比較的強く持っていったのではないか。その考え方は、とても良かったと思う。

・住んでいる人が住みやすければ、人がついてくるだろうという考え方をしていくことが良いのではないかと思った。

・委員の方からはたくさんのアイデアを出していただきとても良かった。

・それをまとめていくと、豊明市はバランスが良いまちということがあった。立地も名古屋から遠くなく、住宅地についても、池があって緑が多く、都市的な施設などもそれなりに揃っており、そこを伸ばしていくことが必要である。

・データでみると、刈谷や豊田からの人口流入が比較のみられた。また、その人たちは豊明に住んで、通っているということがある。

・豊明を評価する人たちは、それなりの階層、考え方、生活の仕方を持った人たちではないか。

・他の自治体と住宅建設で人口を取りあうのではなく、豊明の良さを評価する人たちに来て頂くのがこれからの豊明の方針ではないかと思う。

・今日は、皆さんから出して頂いた施策提案を議論の中心とし、取りまとめに向けた活発な議論をお願いしたい。

（小浮市長）

・おはようございます。

多忙な中、3回にわたり委員会にご出席いただき、市長として感謝申し上げます。第2回の委員会でも、各委員の皆様方から多くの貴重な事業提案をいただき、それぞれの提案を、総合戦略案に反映させていただいている。

今日は、可能な限り、総合戦略案をまとめあげていく作業をお願いしたい。過去2回、

他の委員会にはない、非常に素晴らしい活発な意見を交わして頂いている。本日もよろしくお願ひしたい。

## 2. 議題

(小川委員長)

・今日の議題は、1つである。豊明市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)がまとまってきているので、これについて議論をしていきたい。

(事務局)

・資料①～③説明

(MURC 永柳)

- ・総合戦略に盛り込まれた事業については、国の新型交付金により事業進捗を図っていくことになる。
- ・予算の概算要求について説明したい。国の負担額が1,080億円、事業ベースでは2,160億円であるが、H27年度の国の負担分は、1,700億円だったので、そこから比べるとかなり事業費が絞られた形となっている。
- ・地方創生は、従来の補助金では対応しきれない地方独自の案を法化的にやっていくことになるので、現状の予算をみると、より一層効果のあがる事業に絞り込んだ形で事業を実施していく必要がある。

(小川委員長)

・資料2を使って説明いただいたが、P31以降具体的な施策が出てきているので、整理の仕方を説明していただきたい。

(事務局)

- ・資料①P32をご覧ください。
- ・これは資料②の総合戦略の左上の四角の部分に該当するところである。
- ・冒頭に、豊明市における安定した雇用を創出するとあるが、国が示している文言では、地方における安定した雇用を創出するというので、豊明市という文字を入れて、国の基本方針を示している
- ・その下に、私どもの4つの基本目標の1つである、「しごと活力創生プロジェクト」ということで書かせていただき、基本的方向ということで、行政の施策を記載し、「若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる」ということを示している。
- ・その下の四角は、(1)基本目標の概要ということで整理をし、その下に指標を、このページでは4つほど出ているが、これは、現在策定中の総合計画のまちづくり指標を参考としている。※がついているものが、第5次豊明市総合計画のまちづくり指標である。このページについては、4つとも、総合計画のまちづくり指標をあげている。
- ・その下の四角は、(2)講ずべき施策に関する基本的方向ということで、ここに、施策を書いている。「地域の経済活動が盛んなまちをつくる」「若い人たちの地元での就労を促進

する」この施策についても、総合計画の大施策を引用している。

- ・総合計画では目指すまちの姿 40 の目標を掲げている。この 40 を施策言葉に置き換えている大施策が、ここに持ってきている施策 1、2 の表現となる。

- ・一番下の四角、(3) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 (K P I) では、具体的な事業の一例を掲げ、その横に、K P I、現状値を持ってきている。現状値は可能な限り、平成 26 年度数値を持ってきている。目標は総合計画最終年の平成 31 年度ということで、目標を掲げている。

- ・施策 1 の下には、「①魅力ある職場づくりを推進する」、次ページには「②産業の活性化を図る」とあるが、施策の下丸数字は、総合計画と関連が取れるものは、中施策と呼んでいるが、大施策から少し、具体的な事業に寄せた表現を使って、関連性を持たせるように作っている。

#### (小川委員長)

- ・ご説明いただいた人口ビジョンのまとめ、まち・ひと・しごとの総合戦略について、質問、ご意見等をいただきたい。

#### (川口委員)

- ・資料①P32 の「仕事活力創生プロジェクト」、(3) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標に①魅力ある職場づくりを促進するという項目があるが、その中で、「商工会、大学と連携した市内での企業・創業に対する支援体制」という文言が入っている。

- ・金融機関の立場から言わせていただくと、企業アンケートの中でも、相談しやすいところとしては、金融機関が一番多い。金融機関にとっても、マッチング事業や起業創業支援は得意分野なので、この文言の中に、金融機関とも連携したという文言を追加いただければありがたい。

#### (小浮市長)

- ・ご意見は、ごもっともである。

#### (小川委員長)

- ・追加するということで、決定としたい。

#### (近藤委員)

- ・人口ビジョンのところで質問したい。

- ・P11 に、豊明市の年代別社会移動率があり、それを元に、その前のページの要因分析がされているが、これは、下にも書いてあるとおり、推計の数字を元に分析が行われているのだが、文章を読んでいると、現状を分析しているのか、推計を分析しているのかわからない。

- ・推計をもって、実数が出し、実数で表現していただくと、純移動率は「マイナスであった」とか、今の表現で良いと思うが、推計値を元にを元にしているのであれば、「マイナスであろう」という表現にすべきではないか。現状なのか推計なのか、わかりやすい表現を

考慮する余地があるのかどうか伺いたい。

**(小川委員長)**

・最新のデータを入れたかったという事務局の意図に対し、実績値の方が信用できるのではないかという意見だと思うが、いかがか。

**(伏屋行政経営部長)**

・表現が日本語としてどうかというご指摘だと思う。  
・表現を変えれば誤解がないと思うので、全ての文章をチェックし、分かりやすい表現としたい。

**(近藤委員)**

・それもあるが、できれば、現状値を用いていただきたい。現状分析であれば、推計値ではなく、現状値のデータを使いたいので、可能であればお願いしたい。

**(MURC 永柳)**

・純移動率の定義そのものに推計的な要素が入る。純移動率は、いわゆる死亡率からすると、恐らくこの程度であろうといったものから、実際の当該年度で出た数字を引いたものであるので、どうしても、この程度であろうといったところが、推計値となってしまう。その差が純移動率という中で、要因をみるという作業となる。

・一旦、その年度の死亡率で想定される人口を置くので、どうしても、推計的な要素が入ってしまう。実際に、封鎖人口で変わっていくという人口モデルの人口がないので、推計値を置くことになってしまう。純移動率というのは、推計的要素を取り入れた上で、こういう要因があるといった定義となるので、そもそもこのグラフが、推計の要素を含むような表現のグラフとなっている。

・実際の移動率だけで社会増減を見るのであれば、P9 図表 1-9 である。実際に、人口がどれぐらい出て行くかという数字だけで追っていくことが可能であり、ここでは、出た人口だけを見る形としたい。

・率でやろうとすると、今言ったように、想定した上で率を出すので、こういう形となってしまう。

**(小川委員長)**

・P11 の下のグラフは、1 年度だけだが、住民基本台帳であれば実績値となるので、これを何年間か追ってみれば、実績値となるのではないか。

・検討していただきたい。

**(根尾委員)**

・細かい話になってしまうが、素案のところ、基本目標②ひとが集うまち創生プロジェクトとあり、数値目標として、桶狭間関連の観光客数が年間 50,500 人となっている。

・1 つ提案だが、実はあそこには駐車場がない。1 号線のすぐそばで、中央競馬場の駅か

ら近いとはいうものの、1台も駐車するスペースがないのは、この地域の観光地として致命的な欠点ではないか。

・すぐ前にあったモスバーガーが閉店され、あそこは空き地になるのではないかと少し離れていても良いが、多少なりとも駐車スペースがあった方が良くと思うので、検討していただきたい。

・目標値ではなく、現状の観光客数の数値はあるか？

#### （坪野経済建設部長）

・資料①P34に44,000人という数値を掲載している。これは、桶狭間古戦場関連の観光客の内、具体的事業の一例に記載の3事業の合計が掲載されている。

・ご指摘のとおり、駐車場がないのが一番痛いところである。目標値に近づくためには、PRの中で、外国人観光客を誘致するとなると、将来的には観光バスの駐車スペースも考えていく必要があり、今後検討していきたい。

#### （根尾委員）

・桶狭間というと、名古屋市緑区側と豊明側と両方ある。来訪される方は地域でみて来るので、豊明だから、緑区だからではなく、地域全体で考えて施策を打った方が良い。

・P34にはふるさと納税の目標値もある。以前、この会議のアイデアでも出たが、花の街であれば、もう少し花がこの中に出てきても良いのではないかと。

#### （事務局）

・ご指摘のとおり、花の街ということで、市内の業者と調整する予定である。予定では、1月切り花（バラ）をふるさと納税で取り入れていく予定である。

・また、市内には、胡蝶蘭、シクラメン等の花もあるので、そちらにも働きかけているところである。

#### （小川委員長）

・駐車場等、設備の話が出てきた。それなりの方向を持っておられたら、駐車場とまでは言わなくても、施設整備をする等、それなりに文言を入れてはどうか。

#### （坪野経済建設部長）

・駐車場はまだ今後の話だが、観光ボランティアさんの待機所や、ツアーニング等は施策としてやっており、既に今年度の先行型交付金事業で動いている。

#### （小浮市長）

・基本的には入れる形で考えたい。

・これは前倒し事業で、観光ボランティアの拠点整備も進めているので、全体の総合戦略の矛盾点もそれで解消されると思う。

#### （小川委員長）

・根尾先生、大学として観光地のルートとか、ガイドをすとか、資料づくりをすとか、大学や先生、学生が参加できるようなプロジェクトが記述できないか。

**(根尾委員)**

・ゼミの中では、フィールドワークで連携をしている自治体へ行って調査をして、HPに掲載したり等を実際に行っているの、官学連携のプロジェクトとしては可能だと思う。

**(小浮市長)**

・名古屋短期大学、桜花学園大学は中京競馬場前駅の近くにあるが、実際に前後駅周辺で観光協会が行っている事業や、商工会が実施している事業等は、大学のサークルにも実際に参加していただいております、応援隊という形で、公式な団体になっていただいております。

・藤田学園さんも別の事業に参加いただいております、かなりの形で既に参加頂いている。

**(小川委員長)**

・今は、記述されていないが、そういった大学、地域との連携・協力など書き込まれた方がよい。

・名鉄さんでは、よくハイキングなど宣伝されているが、豊明のいくつかの史跡に関するハイキングや桶狭間の宣伝等、連携することは可能か？

**(安藤委員 (代理 湯浅氏))**

・手元に資料がないので、憶測で申し訳ないが、前後駅を出発地としてハイキングを実施している。自治体と協力しながら、ハイキングを魅力あるものにしていきたいと弊社も考えている。

・ハイキング自体が、高齢者の方の健康志向の高まりもあり、年々増加していると聞いている。自治体とも協力できる部分があれば、積極的に行っていきたい。

**(小川委員長)**

・名鉄も参加していただけると思うので、そのあたりの書き方を工夫していただきたい。

**(小浮市長)**

・観光関連ウォーキングとあるが、これは名鉄さんが行っているハイキングがほとんどであると言っても良い。

**(小川委員長)**

・逆に言えば、名鉄のハイキングを市の中でも積極的にPRすることが必要であろう。お互いに協力するという事で、進めていただければと思う。

**(近藤委員)**

・ここに載せるかどうかは別として、前後駅の活用について考えたい。

・イルミネーションをしても、すぐ際を走る道路(桜通沓掛線)から見ても、駅前広場

の様子が見えない。駅でどんなにがんばっても、それが駅から発信されていないことを残念に思う。

- ・要因の1つには、下に線路があるという大きな壁があり、イルミネーションは上の方がちらっと見えるだけなのだが、そのあたりをもう少し外からも見えるようにすると、こんなことをやっているなら今度来てみようかなという効果になるのではないか。

- ・思いきって、壁をアクリル板にして、駅の様子が通過する人に見えるような開放的な駅にはできないか。

- ・地方創生とは関係ないかもしれないが、そういうこともしないと、駅の活性化は難しいのではないか。

**(伏屋行政経営部長)**

- ・まち・ひと・しごとはソフト中心なので、市の別の施策で取り上げたい。

**(坪野経済建設部長)**

- ・道路行政の話として、ご意見としてうかがっておく。

**(小川委員長)**

- ・駅前はあるゆることで賑やかにしていくことが必要だと思う。

**(星長委員(代理 都築氏))**

- ・P39の暮らしの満足創生プロジェクトの(3)①多様な主体者が連携して、行動できる環境をつくるの中に、「豊明団地内において…拠点を整備し、高齢者等の生活支援や、ICT等を」とあるが、高齢者等に含まれているとは思いますが、もう少し、子どもの医療の部分に目を当てて、文章として記載した方が良いのではないか。

- ・発達障害で悩む方が年々増えている現状もあるし、重度障害者や、高齢出産によるリスクを含めて出産するかどうか、体制を保護してくれる市町村がどこにあるか、出産を考えている女性からすると、安心して産めるまちが愛知県内にどこにあるのか分からない。思いつくのは、ハードが揃っているという面では、大府市である。そこに近いところに住もうと思うと、豊明市が良いのではないかと選ばれるためには、もう少しここに子供の医療等の記述もいただけるとよい。

- ・我々大学病院は、看護師が多くおり、どこに住もうか皆さん考えている。出産、育児をしながら仕事のことも考えるので、安心して仕事に就けるような、仕事が続けられるようなまちというのを、ここに文言として入れていただくことを検討いただければ幸いである。

**(原田健康福祉部長)**

- ・子ども医療ということで、豊明団地の中に病後保育質というものを、28年4月から開設を予定している。そちらについては、P38の最下段に、病後児保育事業ということで掲載している。豊明団地という書き方はしないが、具体的事業としての取り組みを行う。

- ・今、都築さんがおっしゃったP39については、高齢者等という中で、統合させていただきたいという思いがある。

・ここについては、P36 に病後児保育事業として記載しているので、この文言でいきたいと思っている。

**(星長委員（代理 都築氏）)**

・URもミクストコミュニティという形で、子育ても含めた形で、団地の促進をしているので、我々も実際に訪問看護等をやっていると、障害を持っているお子さんの親御さんたちが、行き場が無い、相談する先が無いという、ネットワークすら無い状況で、個々で問題を抱え込んでいて、自宅からアクセスする先が見つからなくて困っているという点もあるので、言葉としてでも、ここに、子供も含めた形でいて頂けると、これを見たお母さんたちは安心できるのではないかな。

・一言の部分でこだわって申し訳ないが、やはりその姿勢はあった方が良くないかと思ひ、さしでがましいとは思ったが、お伝えさせていただいた。

**(小川委員長)**

・高齢者+子どもの医療、特に、知的障害者や、特別支援のこどもたちですね。先ほどの、病後児保育とはまた違った内容になると思うので、入れていただいても良いのではないかな。

**(事務局)**

・事務局の整理の段階の話をしていただきたいのだが、今回、4つの基本目標を定める中において、今、健康福祉部長が申しあげたとおり、P36の「子どもの学びと創生プロジェクト」、こちらは、少しネウボラ的な要素を意識している。これは、豊明の特徴になっているかと思うが、子育ての共助と一本の線にして、このプロジェクトを作ろうということで、子どもを中心とした特出ししたプロジェクトとなっている。

・4つめの、暮らしの満足のところ、少し子供の表現が欠けているという指摘はごもっともであるが、ちょっと特徴的に特出しをしているので、「子どもの学びと創生プロジェクト」の4つめの暮らしの満足のところ、豊明団地、URさんのところの文言等を整理させていただきたい。両方に書くのは分かりにくいと思うので、そのあたり、事務局で整理したい。

**(星長委員（代理 都築氏）)**

・豊明団地に限った話ではなく、市内全域という形で、記載がもう少し、子どもの医療に関する部分が分かるかと思ひかなと思つたので、検討いただきたい。

**(小川委員長)**

・子どもの医療関連については、3の子どもの学びと育ち創生プロジェクトのどこかへ盛り込むことをご検討をいただきたい。P39はむしろ、高齢者中心となるということだね。

・気になったのは、P39の豊明団地内においてである。これを、徐々に全市に範囲を拡げていくことが、安心して豊明に来ていただくための、条件だと思ひますが、そういう方向は持っているのだよね？そこまで書くかどうかは検討課題となると思ひ。



**(事務局)**

- ・P39(3) 施策1は総合計画の目標になっているので、行政として取り組んでいくものとなる。
- ・総合戦略の中からも、国の交付金を狙ってやっていくような事業ということで整理しており、ご理解いただければと思う。

**(小川委員長)**

- ・この報告書の中には書かないということか？

**(事務局)**

- ・委員の皆様にご検討いただき、必要ということであれば書いていきたい。今、提案させていただいているのは、今年を含めた5年間で取り組むもので、暮らしの満足創生プロジェクトの(3)については、「豊明団地内において」という表現をいれて、重点的に総合戦略事業をやっていきたいという提案である。

**(小川委員長)**

- ・5年間でということだね。拡大する方針を持っているということなので安心した。

**(鈴木委員)**

- ・連合尾張東ということで、働く者の代表という立場で参加させていただいているので、仕事の関係が気になっている。
- ・P33 施策2の具体的事業の一例の中に、職場体験事業の数が、現状216、目標256となっているが、できれば内訳を知りたい。今、世間でも言われているように、非正規労働者がものすごく増えている。できれば生涯働いていただきたい。この216のうち、どれぐらいのところか正規社員として受け入れているか分かる資料があればお伺いしたい。
- ・うちはホシザキ電機なのだが、職場体験は、中学生が年に2~3校来ている。中学生等は、コンビニ等へ職場体験に行っている数が多いように思うのだが、できれば正規社員に登用するつながりを持ってほしいと思う。

**(加藤教育部長)**

- ・職場体験事業の概要について話をしたい。現在、中学生が、市内の色々な企業(市役所含む)に職場体験に伺っている。ここでは、それを取り上げており、中学生が行っている企業が、今216ぐらいあるということである。これを、将来的に256ぐらいまで拡大していきたい。これについては、中学生対象と考えていただきたい。

**(鈴木委員)**

- ・豊明で働いていただきたいということであれば、当然のことながら アルバイトではなく、正規社員で採用していただきたいという思いがある。216の企業のうち、正規社員に登用しているところがどのぐらいあるのか？
- ・職場体験をし、アルバイトで終わるのか、正規社員で残るのかは大きな違いだと思うの

で、データがあったら教えていただきたい。

**(加藤教育部長)**

・中学生なので、就職まで見据えてということではなく、どのような仕事を社会でしていくかという学習の場でもあるので、子供達からすると、ここで働きたいなという思い出という部分もあると思う。

**(鈴木委員)**

・できれば、職場体験したところで就職したいという気持ちを持っていただくのが一番良いと思っている。そのようにつながっていくと、仕事の関係もうまくいくのではないかと。  
・職場体験＝就職となるかならないかというのは難しいと思うが、そのように持つていくのも、豊明市の施策ではないか。

**(事務局)**

・補足をしたい。職場体験事業は、今申し上げたとおり、中学生を対象に、市内の企業、近隣の企業の方にご協力いただき、経験をしていただいている。ご指摘の対象になる事業は、インターンシップ制度支援事業ではないか。  
・高校生のインタビューにもあったが、市内にどんな企業があるか全然知らないとか、市内の社長様に集まっていたインタビューでも、市内から新規採用が採れないという意見がたくさんあった。  
・学生と市内企業のマッチングというものが、その先には出てくると思っているが、この職場体験事業については、きっかけというか、市内にどんな会社があるか知ってもらいたいということがありやっているものをご理解いただきたい。  
・資料①P20 に事業所アンケートとして、市内の採用状況についてとある。こういった状況については把握しているので、創生事業として個別に明示はできていないが、課題としては認識している。

**(野村委員)**

・資料①の P35 施策 3 ①花の街プロジェクトの推進とあるが、この中の具体的事業の2つめ、花のふるさと納税事業は、どこが主体となるのか。  
・私も酒井さんも、花の街とよあけ推進委員会に入っているが、具体的な話を聞いていない。見切り発車的に進めているのか、花き市場と話を詰めているのか、こういった形で進めているのか？

**(事務局)**

・先ほど根尾委員にも触れていただいたが、今、花き市場にポインセチアをご協力いただき、ふるさと納税ということで、設定している。  
・ふるさと納税については、魅力的な豊明の逸品ということで、市内の企業、個人の方に、パートナーとして契約していただいている。創生事業の目標として、250件と掲げているが、これから事業を展開する上で、各方面、花の農家もあるし、企業もあるかと思うが、これ

から協力を得ながらやっていきたいと考えているのでよろしくお願いいたします。

**(野村委員)**

・花の街とよあけ推進委員会の中でも、出来たらこういった話を盛り込んでいけると、より効果的だと思ったので、意見として言わせていただいた。

**(星長委員 (代理 都築氏))**

・一番大事な 2040 年まで、これらのプロジェクトを、今の子ども達に継続的に周知していく、説明していく場がこのプランにないように思うが、他の場面で用意されているのか？  
・せっかくこのように考えても、継続的に伝える機会がなければ、今から 25 年間、子供を生み育てていき、子ども達に対して周知できなければ難しいのではないかな。

**(事務局)**

・そういった話になると、総合戦略よりも、総合計画に近い内容だと思う。現在策定中で、今度の議会で議決される方向だが、総合計画の概要版を作っているのだから、そちらを工夫させていただき、まちづくりノートというものを予定している。それを、出来れば子ども達に配付させていただき、その中に、豊明が目指すまちづくりを入れて、指導室のご協力もいただき、公民のような授業でやっていただければ、そういったことで連携をしていただければいいのではないかな。

**(星長委員 (代理 都築氏))**

・医療側の意見としては、この地域は、医療・介護の担い手が圧倒的に高齢者に対して少なくなることが予想されているので、他の業種と取り合うわけではないが、家庭でどのように自宅の高齢者をみていくか、地域の高齢者を見守っていくか、地域のあり方を子ども達に伝えていくことを、10年、15年かけてやっていかないと、急には出来ない。  
・教育を含めて、高齢者のまち、地域のケアという概念も含めて、豊明市が目指すまちづくりを継続して伝え続けることが大事だと思っている。

**(近藤委員)**

・事業の現状の基準がわかりにくい。先ほどの、花のふるさと納税は、現状ではポイントチャがあるのに 0 件なのかというところがあるため、基準がいつなのか、26 年度なのか、27 年度なのか、明示できないかな？  
・P35 の大学等入学支援金給付事業を見ると、これは、子供の教育環境を整え、安心して産み育てられる街という箇所に入れる方がふさわしいのではないかな？  
・大学に入学したとしても、住み続けられる環境を確保する等、今の箇所では主旨が違う気がする。  
・P40 施策 2 自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくとあるが、実際に、この中に自然をするという部分が見当たらない。ないのであれば、表現を変えた方がいいのではないかな？

**(加藤教育部長)**

- ・大学等入学支援金給付事業は、今回の総合戦略に合わせた観点を持つものである。市内に住んでいる大学入学予定者について、入学金を支援金という形で給付をする。その方が大学を卒業後に、豊明市に戻ってきてくれることを期待するというのが目的である。
- ・戻ってきてくれて、豊明に住民票をおいてもらって、豊明で働いてもらうことを目指している。戻って来て、豊明に住民票がある間については、返還を免除しようという形で考えている。
- ・豊明の人口を増やすことも観点として考えている事業である。

**(事務局)**

- ・現状値については、平成 26 年値の実績で協力可能なものは統一している。花のふるさと納税事業については、実績がなかったということである。
- ・P40 施策 2 の表現は、自然を確保しながらということで、これは総合計画の大施策を持ってきている。具体的事業の一例の中には示せていないが、再生可能エネルギー関係の事業が、67 管理していく創生事業の中にはある。国の方に出していく中で、交付金を少しでも得たいという思惑があって、表現は残していきたいと思っている。

**(小川委員長)**

- ・生活に不自由のない街の方に重点があるということだね。

**(前田委員)**

- ・P40 施策 2 に拠点駅の機能を強化するとあるが、2 つのテーマがあると思う。
- ・上の事業は、駅に人が来てほしいという話で、下の方は機能である。駅前でいろんなことを済ますことが出来るという話だと思うが、人を集めるという部分で、市民が駅に出てきてもらうのか、よそから外に来てもらうのかよくわからない。
- ・証明書の交付等とう市役所機能の部分だが、具体的にどのようなことをやれば、駅前で用事が済ませられるのか、もう少し具体的に分かると良い。

**(石川市民生活部長)**

- ・まだ検討中の事業だが、駅前で住民票、戸籍謄本・抄本、印鑑証明の発行等をしていきたいと考えている。状況によっては、機能拡大していくことを考えても良いかなと思っている。

**(前田委員)**

- ・具体的には、夜遅くまで仕事している人が帰ってきた時に、もうどこも営業していないので、対応時間を遅くまで伸ばして利用してもらおうとか、具体的な話があるとなお良い。

**(酒井委員)**

- ・P35 の花の街とよあけのところだが、具体的事業の一例として、講習会等の参加者とあるが、これは、花の街とよあけ推進委員会としては、現状でいくと 100 人程度ではなく、

花の街検定等含めると何百人という規模になっている。

・目標が200人というのは、あまりにも少ない。推進委員会としては、万人規模に増やすことを考えているので、ここはもっと欲張った数字を入れて欲しい。

(小川委員長)

・提案としては何人くらいか？

(酒井委員)

・やはり1万人くらいは。市民の方全ての方に、花に関する知識を得ていただきたいということが推進委員会の希望である。

(坪野経済建設部長)

・数字的な話は、私ども産業振興課が推進協議会の中心をしているが、講習会の参加者数の実績が100人だったので、それを倍の200人としたと聞いている。  
・把握している数字が1ケタ違うのはよく分からないので確認する。

(小川委員長)

・挙げた数字に対しての達成度合いによって評価があるわけだね？

(坪野経済建設部長)

・酒井委員のおっしゃった延数の話であれば、1年のということなので、実績は100人である。31年まで4年間なので、あと50人ずつ増やせば200人となる、そういった数字である。

(酒井委員)

・どちらにしろ、商工会のタイアップを前提にしていると思うので、もう少し人数を増やしてほしい。大体は把握しているので。

(坪野経済建設部長)

・すり合わせさせていただきたい。

(酒井委員)

・Webサイトの閲覧件数だが、観光事業に関しては0件ということだが、分離していないのか？観光協会の方でWebサイトがあった気がするので、0はおかしい気がする。

(坪野経済建設部長)

・現状0件という意味は、今、観光まちづくりのプロモーションビデオを作成しており、これを今後活用していくと…ということなので、現在は0件としている。

・今年度中にもプロモーションビデオができるので、来年度以降、活用していきたい。

(酒井委員)

・プロモーションビデオは、佐賀県と宮崎県のものを見たのだが、結構おもしろい。佐賀

県のPRと宮崎県の小林市が、年間閲覧数トップなので、機会があれば見てほしい。

- ・古戦場を文字って、ああいうパロディ的なものがあると良いのでは？堅いPRではなかなか見てもらえないので、今後の参考までに。

- ・P40の具体的事業の一例として、マルシェ等の開催とあると、マルシェと言われても何のことか分からない。市場とかの方が良いのでは？色んな人を見る関係上、別の表現の方が良い気がする。

#### （坪井委員）

- ・先ほどの話と重なるが、今回、現状のところ0と書かれているのは、今後、この事業を興していくから0だという話だという理解した。

- ・31年を目標にして、目標値をそれぞれ設定されているが、いきなり31年なのか、途中でマイルストーン的に置いているのか、そこが外れたら巻き返すのか、その間がこの資料では分からない。

- ・皆さんが議論を重ねた結果、この数字が出ていると思うが、その間について、何か代表的なところについて、教えていただけるとありがたい。

#### （事務局）

- ・KPIについては、総合戦略上、皆様に年に1回程度お集まりいただき、現状値と比べたその時の値をお示しし、議論をいただきたい。

- ・数字の進捗によっては、重要なのに数字が伸びていない事業は、ムチを入れていただかないといけないし、早く達成したら、少し切り替えて、また新たな創生事業ということになると思う。

- ・今年を含めて4年ぐらいになるので、中間的にどこまで目指すかは、まだ設定していない。

#### （小川委員長）

- ・この中で、特に女性の職場、育児についていくつかあげてあるが、このあたりについてはいかがか？

#### （坪内委員）

- ・P38に女性の復職支援プログラムや、活躍セミナーの開催事業とあるが、この目標が良い悪いではなく、目標が参加人数となっているが、本来狙っているところは、復職された方の人数や、セミナーに参加された方が、その先どうなっていくかという、大きな目標であって、参加することだけを目標にするということではないと思う。

- ・数字としては、これしか捉えようがないかもしれないが、何かもう少し先のところで目標があっても良いのではないか。

#### （事務局）

- ・P36の基本目標の概要のところ、まちづくり指標を中心に置いている。こちらの方が、今、おっしゃった通り、アウトカム（成果）を中心に考えており、創生事業については、

直接結果ということで住み分けている。

- ・実際の復職プログラムについては、何人の方が復職したという目標の方が適しているのではないかという議論も内部であったが、ここについては、まずは事業をやって、参加者を増やそうということで、この事業のアウトプットとして、40人という数値を設定している。

- ・全体の成果（アウトカム）については、まちづくり指標の方でみていきたい。

#### （小川委員長）

- ・数値的なもので考えると、育児休業の制度を持っている企業の割合とか。確か、今は半分くらいで、とても低いと思うので、その割合なども指標に上げて良いのではないか。

- ・女性が職場や地域で活躍し続けられるというのは抽象的なので、女性が継続的に就労できるとか、働けるといった記述の方が良いのではないか？

- ・P37 施策3の表現など、活躍というと、どう判断すれば良いか分からないので、継続就労の方が適していると思う。

- ・育児の表現で、女性が出産育児という表現があり、例えばP27に、女性が出産、子育てしながら働きとか、出生率を向上させるとかあるが、女性に限らなくとも、夫婦で出産、子育てしながら働ける、で十分ではないか。

- ・イメージとして、女性に限ることではない。全体に渡って、古い表現になっているから、検討していただきたい。

#### （安藤委員（代理 湯浅氏））

- ・先ほど、名鉄ハイキングの件をお話しさせていただいたが、この部分については、現状も年1～2回程度実施させていただいている。観光拠点や駅の整備については特に電車の利用者に限ってではなく、駅前広場などの賑わいを創出する観点から申し上げると、道路の寄り付きであったり、バス等を含めた交通移動手段の接続のしやすさの部分改善していかないと、市民の皆様の利便性を上げるのは難しい。

- ・交通政策を含めた総合的な部分でも協力させていただければと思う。

#### （竹内委員）

- ・総合戦略の中に、それぞれの項目に合わせたプロジェクトがあり、具体的な事業の一例ということで、それぞれ記載があるが、現状値が0のものを、31年度までにこの件数を目標にするということで、具体名事業例が記載されている。これらの事業そのもののフィジビリティというか、実施可能性というのはどうなのか。当然、これは交付金事業に位置付けられた上で、その事業を実施して、こういった成果を期待するというものだと思うが、交付金そのものを、自治体同士が取りあう部分もあり、その中でこの総合戦略が、5年先までこういったことを目指すということを市民に公表していく。その先の話として、現実問題、予算措置等の兼ね合いの中から、フィジビリティについて影響が出ないかといったところについて、お聞きしたい。

(小川委員長)

・どのように実施させていくか、その評価にも関わると思うが、そのあたりの考え方はいかがか。

(伏屋行政経営部長)

・今回、ここに40事業を載せており、さらに全体では67事業がある。  
・最初の説明で、国の予算が1,080億円ということだったが、豊明市にはどれだけ補助金があるだろうと考えると、1/2補助なので、3千万程度ではないかと考えられる。事業費ベースで6,000万円ぐらい、もう少し多くても8,000万円程度なので。  
・そうなってくると、重点事業の中で、さらにプライオリティをつけてやっていき、あとは、市単独事業ということで、さらに優先順位をつけて、全総計画との兼ね合いもあるので、今日、お認めいただいた後、それらの優先順位を個別につけていく形になると思う。

(竹内委員)

・そうした事情の中、着手できる事業とできない事業が出てくる可能性があるということか？  
・市民の方からみると、こうしたものを打ち上げる形となるので、計画として存在するじゃないかということになるので、そうしたところの説明が必要だと感じる。  
・P39の一番下のところに、けやきいきいきプロジェクト事業とあるが、カッコ書きの中の表現がややわかりにくい。  
・拠点というものについては、拠点を整備・運営するということと、高齢者等の生活支援をするということについては、拠点を整備した上で生活支援を行うという上の太字の書き方の方が分かりやすい。  
・医療・福祉・高齢者等の生活拠点ということで、並びでないものが並列で記載されているところが、分かりにくいと感じるので、修正いただければと思う。  
・もう1点、これはUR単独で実施していることなので、この中に記載するかどうか別問題だが、UR賃貸住宅については、昨年度から近居促進を行っている。高齢者の方、子育て世帯の方と3親等以内の親族の方が、同居ではなく近くに住む、UR賃貸住宅に両方の世帯が入れる(半径2キロ以内)場合に、また、既にUR賃貸住宅にお住まいの方の近くに、もう片方の方がUR賃貸住宅に入居される場合に、家賃を割引させていただく制度であり、そういった近居促進、近居支援制度について、昨年から運用している。  
・一部エリアでは先行して実施しているが、今後は制度を拡大し、今まではUR賃貸住宅同士での近居だったが、片方の世帯が民間住宅や自己所有の住宅であったとしても、その近くのUR賃貸住宅に入る場合について、一定の条件に該当する方については家賃の割引をしようという取組みがある。具体的には5年間で5%というわずかな金額だが、そういった近居支援制度を実施している。  
・P34~35にかけての、住み続けられる住宅を確保するという中の、施策の中に、親との同居、近居の購入費補助事業もあるが、現在、豊明団地及び市内のその他の団地に関して、一部制度の拡大を検討している。  
・この中に記載していただきたいとか、豊明市から補助をいただきたいという話ではなく、



我々と豊明市さんとの施策の方向性をしっかりベクトルを合わせながら進めていきたいということで、ご紹介をさせていただきました。

**(小浮市長)**

- ・非常にありがたい話である。

**(小川委員長)**

- ・市の方向と合致しているものが、社会的な方向になってきているということで、とても良い話である。そういった情報も、市を通じて宣伝することができると思う。

**(大越委員)**

- ・質問したかったことは既に出してしまったので、競馬場としての考え方を述べたい。
- ・仕事柄、こういったものに直接的な協力していくことはなかなか難しく、競馬場の馬場内公園の平日開場等くらいしかないのだが、色々と事業は行っている。
- ・豊明市さん対しては、日頃から道路、公園等の環境整備等、側面的に協力をしている。
- ・また、先ほどのハイキング等で、競馬場にも来ていただいております、ふるさと納税等にも、ご協力させていただいている。
- ・直接的に協力できなくて申し訳ないが、間接的にできるものについては、色々とご協力して参りたいと考えている。

**(小川委員長)**

- ・中京競馬場では、乗馬教室や見学会などを行っていただいているが、そういったものを、市の方で宣伝（HPで発信等）するようなことはやられているのか？

**(大越委員)**

- ・人数を限定しないといけない。乗馬を教える人数にも限りがあるし、鳴海高校でもやっているのですが、頻繁にはできない。そのあたりは持ち帰って、検討をしたい。

**(小川委員長)**

- ・情報を市で流せるようになると良い。市が関与しているということになれば、とても大きいと思うし、市のイメージを高めていくことにもつながる。

**(小浮市長)**

- ・補足すると、28,000部ほど、各世帯に配布している市の広報紙があるのだが、その中に、中京競馬場の中に自由に子どもたちが遊べる施設があるのだが、そういったところでのイベント情報などは紹介させていただいている。

**(岩田委員)**

- ・最初に説明があったように、まずは今、豊明市に住んでいる方が満足できるような政策にしていこうというところから出発をし、人が呼び込めるような街づくりをしていこうと

いう発想に、非常に共感を覚えた。

・各施策が、名古屋市、西三河の中間に位置しているという豊明市のロケーションを非常に意識して、それを尊重して作られているという点でも、地に足がついた計画だという印象をもっている。

・その上で、2つ話したい。

・まず、私ども経済産業省の関係の、しごと活力創生プロジェクトのところである。

・指標的には、非常に意欲的な目標というか、新しく、色んなことを始めていこうという思いが現れている計画だと思う。当然のことながら、商工会とすり合わせをしていると思うが、私どもの方に、商工会から今年度の商工会会員の経営発達支援計画をいただいております。その中は、これと非常にリンクしたような事業計画がたてられていた。

・着実に進めていただくことを期待したい。

・先ほど、金融機関を入れてという話があったが、私もそのように思う。是非、地域の金融機関の参加をいただくと、より地域の事業者のみなさんの経営発展に資するのではないかと思う。

・また、観光もそうだし、この仕事のところでもそうだが、豊明市単独でやるものと、近隣市町と協働でやっていただくと良いこともあると思う。

・創業塾などは一緒にやるとなっていると思うが、マッチング会なども、最初は新規でやれば良いと思うが、徐々に拡大して、近隣市町村とやっていくもお考えいただくと良いと思う。

・事業の創業については、ここのロケーションからすると、製造業は人の吸収力も高いので、製造業の立地はふさわしいかもしれないが、必ずしもそれにこだわらずに、商業、サービス等が興せるところは、逆に、限られている。ある程度、都市化が進んだところでないと、そういうビジネスは成り立たない。そのあたりを意識しながら、創業や新しいビジネス興しを進めていくと、事業者の増につながり、まちの魅力が増すのではないかという印象を受けた。

・女性の立場で一言申し上げると、この委員会に何回か出席しているが、以前、男性の育児休業率を高めようという話があり、非常に高い目標だと感じて、それが、ここにどのように表現されるのか楽しみにしていたのだが、男性向けの子育て講座を1回やるということのみであった。それも大事なことなのだが、先生もおっしゃったように、女性は働きやすくしましょう、男性は意識を啓蒙しましょうということではなく、この豊明であれば、もっと意識の新しい、ニューファミリーを志向するような家族が豊明に住みたいと思えるような施策をやっても、十分、やっていけると思う。

・男性も女性も、働きながら子育てをしていこうというような若い人たちが、今、増えてきているので、そういう新しい思考をもった家族を豊明に引き込めるような魅力の発信の仕方を、子育てや学びのところでしていくと良いのではと思う。

・男性向け子育て講座でというものではなく、夫婦二人で子育てをしようというような企画の方がマッチするような気がする。全体を通して、ニューファミリーを志向するようなフィーリングを持った方々が豊明に来て、家族を持ちましょうというようなことを感じられるような表現の方が良いと思う。

・最後に、実行ベースの話となるが、国の交付金を十分活用いただくこともそうだし、私

ども経済産業省や、農水など各省庁、色んな支援制度を持っている。関連団体では、中小機構や政府系金融機関等も色んな支援制度を持っているので、敷居が高いなどと思わずに、是非、お声掛けをいただき、有効な施策にはどんどん使っていただきたい。

・窓口は、商工会や県連になると思うが、そういうところでご相談いただきたい。市から直接いただいて、我々がそちらの方と相談することも十分可能なので、これからも実行ベースのところでは、そのような協力をさせていただけると、私どもも大変ありがたい。

#### （飯田委員）

- ・初めての出席であり、ざっくりとした感想を述べたい。
- ・愛知県も、人口ビジョンとして、総合戦略を10月26日に作り上げることができた。皆様方から色んな意見をいただきながら、まとめる事ができ、本当に感謝している。
- ・豊明市の人口ビジョンと総合戦略を拝見し、立て付け、ポイントとも、愛知県の人口ビジョン、総合戦略と非常に親和性があり、非常に良いものが出来つつあると感じた。
- ・事務局の皆様方は、総合計画を作りながらの作業であり、ご苦労が多かったであろうと思う。まだ素案なので、これをなんとか仕上げるところまで、もうひと頑張りお願いしたい。
- ・今日、委員会に参加させていただき、地元の皆様方の活発な意見交換に非常に感銘を受けた。
- ・今回の戦略のいわゆる中心となるのは、やはり、この豊明市の街柄であり、それを一番表しているのが、基本目標の、人が集うまちという部分と、人口ビジョンでも使っている言葉で、選ばれるまちにしていこうということ、この2つの言葉が、非常に良いと思う。
- ・豊明市の一番強みである地元で大学等があるというところで、その下に書いてある学びの街、大学との連携をしっかりと中に定着させていき、地域の活性化につなげていくことが一番だと感じた。
- ・全体のたてつけとしては、非常に良い方向に整理できていると思うが、若干確認をさせていただきたいところがある。
- ・総合戦略のP7とP28を見比べると、P28のところ、将来的な人口の見通しをたてているが、前提となる社会移動のところについて、現行では、現状の推移をベースとして、将来的には計画予定の整理事業などの開発付加を想定と書いてあるが、多分これを市民の方が見ると、何がどう入っているか分からないので、もう少し分かりやすい表現はないか？
- ・イメージ的に、どのぐらいの規模のものなのかが見えてくると、何人ということではなくても、大体どのぐらいのことをイメージしたここでの社会移動として、ここでどれだけの方に豊明市に来ていただきたいと考えてくるのが入って来ると、分かりやすいと思う。
- ・P7の現状を見ると、上の囲みのところ、社会増減の1行目のところで、2014年は158人のマイナスと書いてあるが、せっかくここに書いてあるが、下のグラフを見ても、2013年までで止まってもったいない。次のページも2013年までで、社会増減のデータはそこで止まっているが残念である。
- ・P3では2014年まで人口移動の推移がちゃんと出ているので、まとめ方は合わせた方が分かりやすいと感じた。そのあたりを整理いただくとよい。
- ・総合戦略の方は、施策の現状時が0というのは、これから取り組んでいく、チャレンジ

ングなものだと理解させていただいたが、現状は先ほど事務局から説明があったが、26年であれば、ここで26年を基本とすると明確に書いておき、違う数字を使うのだったら、エクスキューズを入れて分かりやすくしておくといよい。

・今日のやりとりの中でもいくつか質問があったように、施策の具体的な一例というところで、何をやるかイメージがわからなかったと思う。我々、県の総合戦略を作る時も、事業名だけではイメージがしづらいので、もう少し事業のイメージが出来るところまで、参考付記等の工夫をすると、非常に良い戦略になると感じた。

・P34 だが、先ほどURからも話があったが、三世代同居近居について、これは、愛知県も総合戦略に方針・方向性は盛り込んだが、やはりこういった施策をやるのは、地元の市町村の皆様の動向を見ないといけないということがあって、今日、豊明市さんでは、しっかりと方向性の中に入っており、リフォームの促進等の具体的な事業も入っており、非常に力強く感じた。政府も1億総活躍の実現の中で、三世代同居近居が1つのポイントになってきている。三世代の同居は難しい部分があるが、近居は親にとっても子どもにとっても孫にとっても、非常にやりやすい生活形態だと思う。これがなんとかうまく進むと良いなと期待を持っているので、是非頑張ってくださいとエールを送りたい。

・P35の観光の魅力づくりだが、今回この10月に、国の方で、観光の上乗せ交付金の採択があった。そういった時に、やはり、地域と連携しているとか、色んな主体が集まっているとか、そういったものが、非常に採択の確度が高い傾向がある。特に、観光や魅力発信の部分については、是非、豊明市独自のものプラス、何か周囲との連携を加味したもので打ち出していくと、効果的だと感じた。

・P39 だが、生きがいをもって高齢者の皆様方に生活していただくということで、豊明市さんでは、地域包括ケアシステムということに、チャレンジをいただいている。愛知県も、是非、後押ししていきたいと思っている。

・国の方では、生涯活躍のまちという言い方をしており、地域包括ケアシステム＋生涯活躍のまちで、若干、国はCCRCみたいなことを言っているのだが、そうではなく、高齢者方の希望を叶えながら、元気な時は地域でしっかりと活動ができ、医療や介護が必要な時にはそういったシステムでケアできるといった街づくりが、豊明市ならできないかと期待をしている。

・こういったところを是非、売りにしていっていただきたいと思う。

#### (小川委員長)

・県からは良い評価をいただいているようだが、データのなところは修正した方が良いという指摘があった。P7とP28の人口移動にデータについて。

・これは開発する地域をどうするかということと、これだけの要素(社会移動、出生率)で伸びるだけではなく、豊明市時代を良くすることによって、人口が伸びるということもあるだろうから、それもここへ書き込んでおいても良いのではないか。

・今日は色々ご指摘をいただいた。

・岩田さんがおっしゃった近隣との連携はとても重要なことだと思う。

・本日も指摘いただいた点は、時間がないとは思いますが、どう活かしていくかということと、中身のデーについてもご指摘をいただいたので、それについては、市の方で検討していた

だいて、修正し、盛り込んで頂きたい。

- ・私からは以上だが、全体を通して、これでまとめて良いか？
- ・資料①②③とあったが、中身がどんな施策か分かりづらいところがあるようなので、資料全部をまとめて1冊の報告書にまとめた方が良いのではないかと思うがいかがか？

(事務局)

- ・委員の方にもご意見をいただいているが、私ども行政から出したものもあるし、議員の方に各方面にご協力をいただいたたくさんの方の事業一覧がある。
- ・総合戦略としてパブリックコメントを行うので、その際にこの委員会の意見だけが一覧となるのは、なじまないと感じるがいかがか？

(小川委員長)

- ・委員会としては、①②を出すということにしたい。

(小浮市長)

- ・先ほどのご指摘のあった、事業の内容がわかりにくいもの、例えば、職場体験は中学生が対象だが、中学生とは書いていないので、そういったところは、ちゃんと分かる様に訂正したい。

(小川委員長)

- ・本日までの報告書については、内容を修正することも踏まえ、ご承認いただきたいがよいか？

(一同)

- ・了承

(小川委員長)

- ・それでは、これで進めさせていただきたい。

### 3. その他

(事務局)

- ・今後のスケジュールについてだが、今後、修正を加えた後、計画案について、パブリックコメントの実施を行いたい。
- ・12月25日～1月4日までを予定している。
- ・パブリックコメントの意見により、計画に大きな修正がある場合には、第4回の推進委員会を開催したいと考えている。あまり修正がない場合については、委員長に相談させていただき、委員会は開催せずに、このまま答申とさせていただきたい。

(小川委員長)

・事務局の提案にあったとおり、パブリックコメントに今日の成果をかけるが、市民から大きな意見がなかった場合には、委員長と事務局の方で相談して、確認することにより、問題がなければ、第4回の委員会を行わず、答申とするということだが、いかがか？

(一同)

・異議なし

(小川委員長)

・では、厳正に調整をするということで、大きな意見がない場合には、私の方で進めさせていただくということで、よろしくお願ひしたい。

・その他、連絡事項があればおねがひしたい。

(事務局)

・事務局からは特になし。

以上

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
推進委員会（第3回）次第

日時 平成27年12月16日(水)  
午前10時～12時  
会場 豊明市商工会館イベントホール

1. 挨拶

2. 議題

豊明市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生  
総合戦略(素案)について

3. その他

配布資料 資料① 豊明市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)  
資料② 〃 〃 〃 概要(素案)  
資料③ 委員創生事業提案(上乘せアイデア及び事業提案)一覧

**豊明市人口ビジョン・  
まち・ひと・しごと創生総合戦略  
( 素案 )**

平成 27 年 12 月

**豊 明 市**



## 〈目次〉

# ■人口ビジョン

序 人口ビジョン策定の目的.....	1
序-1 策定の趣旨 .....	1
序-2 策定にあたって .....	1
(1) 実施業務 .....	1
(2) 第5次総合計画との整合性確保 .....	1
(3) 対象期間 .....	1
第1章 豊明市人口の現状分析 .....	2
1-1 総人口 .....	2
(1) 豊明市の人口推移（日本人） .....	2
(2) 豊明市の5歳階級別人口（2015年） .....	3
(3) 豊明市の3区分による人口推移 .....	5
1-2 合計特殊出生率 .....	6
1-3 自然増減・社会増減 .....	7
(1) 人口増減数 .....	7
(2) 自然増減数 .....	8
(3) 社会増減数 .....	8
(4) 愛知県内市町村の自然増減・社会増減の状況（名古屋市を除く） .....	9
(5) 豊明市の純移動率（2010年→2015年）からみた社会増減の要因分析 .....	10
(6) 豊明市の都市間人口移動の状況 .....	12
1-4 昼夜間人口 .....	15
(1) 豊明市の年代別昼夜間人口比率（2010年） .....	15
(2) 豊明市の通勤・通学先等の状況（2010年） .....	16
第2章 人口動向を踏まえた豊明市の強みと課題 .....	17
2-1 アンケート結果概要 .....	17
(1) 市民（若者）アンケート .....	17
(2) 市外転出者アンケート .....	19
(3) 事業所アンケート .....	20
2-2 ヒアリング結果概要 .....	23
(1) 市内金融機関（9機関）ヒアリング .....	23
(2) 企業経営者・幹部（8社）ヒアリング .....	24
(3) 保育園保護者（8名）ヒアリング .....	24
(4) 高校生（7名）ヒアリング .....	25
2-3 人口動向等を踏まえた豊明市の強みと課題 .....	26
第3章 目指すべき方向性と人口の将来展望 .....	27
3-1 めざすべき方向性 .....	27

3-2 人口の将来展望.....	27
3-3 豊明市人口の長期的な見通し.....	28

## ■まち・ひと・しごと創生総合戦略

はじめに.....	31
1. 総合戦略策定の趣旨.....	31
2. 総合戦略の概要と期間.....	31
(1)総合戦略の概要.....	31
(2)策定期間.....	31
1. 豊明市における安定した雇用を創出する.....	32
しごと活力創生プロジェクト	
～若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる～.....	32
(1)基本目標の概要.....	32
(2)講ずべき施策に関する基本的方向.....	32
(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標.....	32
2. 豊明市への新しいひとの流れをつくる.....	34
ひとが集うまち創生プロジェクト	
～誰もが訪れたい、住みたいと思うような、ひとが集う魅力あふれるまちをつくる～... 34	
(1)基本目標の概要.....	34
(2)講ずべき施策に関する基本的方向.....	34
(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標.....	34
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる.....	36
子どもの学びと育ち創生プロジェクト	
～教育環境を整え、子どもを安心して産み育てられるまちをつくる～.....	36
(1)基本目標の概要.....	36
(2)講ずべき施策に関する基本的方向.....	36
(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標.....	36
4. 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する.....	39
暮らしの満足創生プロジェクト	
～医療環境、公共交通などを充実し、暮らしの満足度の高いまちをつくる.....	39
(1)基本目標の概要.....	39
(2)講ずべき施策に関する基本的方向.....	39
(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標.....	39

# ■人口ビジョン

## 序 人口ビジョン策定の目的

### 序-1 策定の趣旨

豊明市では、国の「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく地方版総合戦略として、「豊明市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するものであるが、本編は、その「人口ビジョン編」を取りまとめたものである。

人口ビジョン編では、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国・愛知県の「長期ビジョン」を勘案しつつ、目指すべき将来の方向や2060年までの人口の将来展望を提示するものである。

### 序-2 策定にあたって

#### (1) 実施業務

人口ビジョンの策定にあたっては、豊明市人口の現状分析を実施するとともに、3種類のアンケート調査（市民（若者）アンケート、市外転出者アンケート、事業所アンケート）とともに、5団体・事業所へのヒアリング（一部グループインタビュー、ワーキング）を実施し、人口動向の背景や要因等の確認を行った。

#### (2) 第5次総合計画との整合性確保

人口ビジョンの策定にあたっては、豊明市の第5次総合計画案（計画期間 2016~2025 年度）との整合性を図りつつ人口推計等の作業を行った。

#### (3) 対象期間

人口ビジョンの対象期間は、国が平成26年12月に策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の期間を踏まえ、平成72（2060）年とした。

# 第1章 豊明市人口の現状分析

## 1-1 総人口

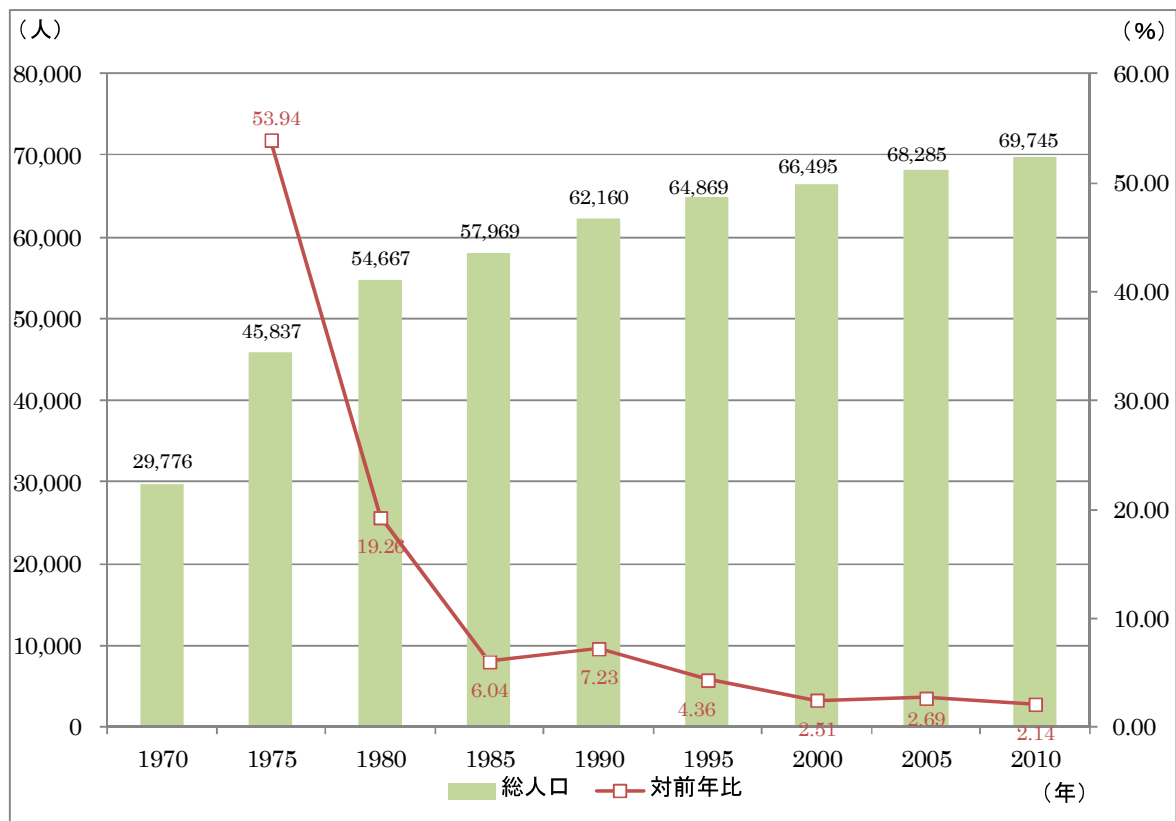
- ・総人口は、1970年代に大きく増加。1985年以降は増加が鈍化。2005年以降ほぼ横ばいとなり、2010年の69,745人(国勢調査より)、2015年9月現在68,602人(住民基本台帳より)となっている。
- ・人口の高齢化が進み、2010年国勢調査の65歳以上人口割合は20.5%（愛知県は20.3）。愛知県下において、高い伸び率を示す。

### (1) 豊明市の人口推移（日本人）

国勢調査による人口推移を図表1-1に示した。豊明市の人口（総数）は、住宅団地整備が進んだ1970年代に大きく増加したものの、1985年以降では増加傾向は鈍化し、2005年以降は横ばい状況になっている。

2010年には69,745人と過去最大人数となっているものの、対前年比で見ると、1975年の53.9%、1980年には19.3%と比べて、2.1%と小さい伸び率となっている。

図表 1-1 豊明市の人口推移（総数）

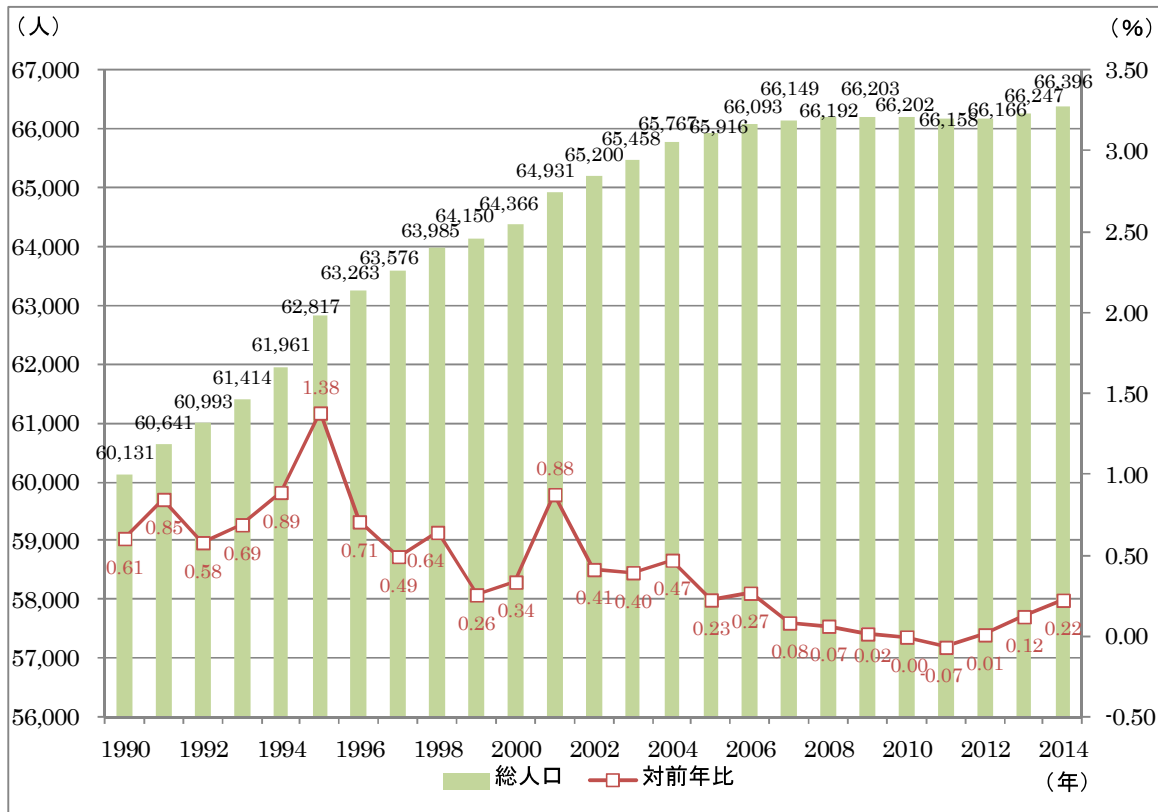


(資料) 国勢調査

近年の動向（1990年以降）を、住民基本台帳（日本人ベース）にて把握した（図表1-2）。2005年頃までは、対前年比1%程度の伸びを示す年次があるなど堅調に推移していたが、それ以降の伸び率は鈍化している。

但し、2011年に減少を示した以降は、微増に転じており、2014年には66,396人と過去最大の人口となっている。

図表1-2 豊明市の人口推移（日本人）



(注) 人口、世帯数は2013年まで3月31日時点、2014年以降は1月1日時点  
 (資料) 住民基本台帳

(2) 豊明市の5歳階級別人口（2015年）

2015年における年齢5歳階級別男女別人口（住民基本台帳）を図表1-3に示した。

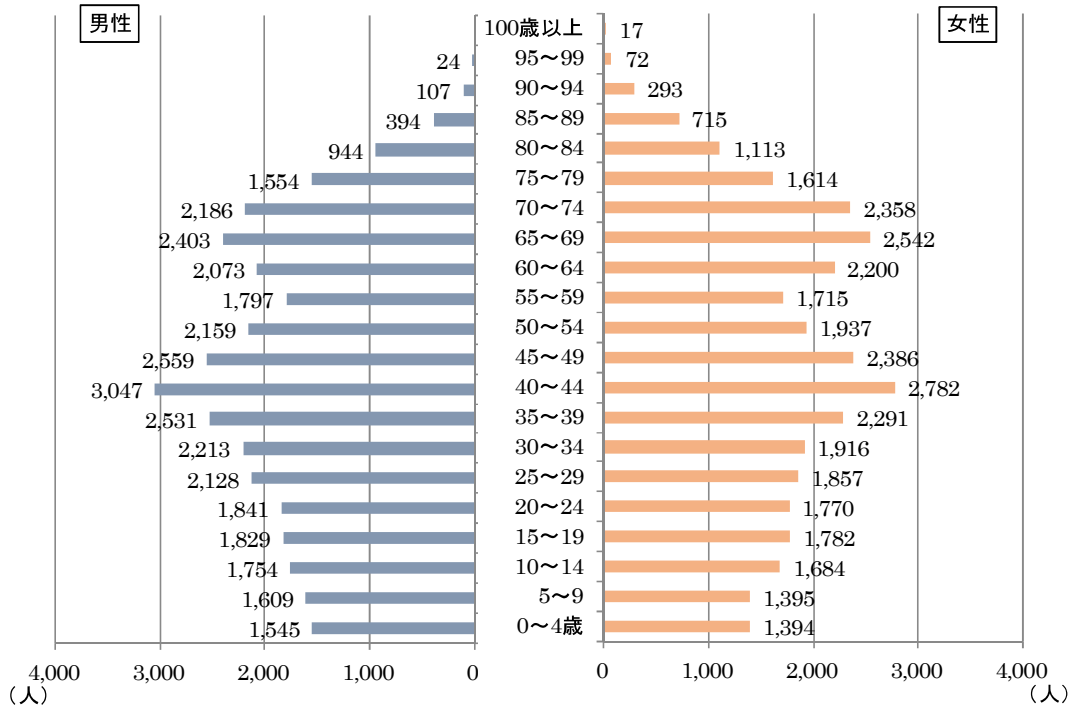
団塊ジュニアと呼ばれる1970年代前半生まれが該当する「40～44歳」が男女ともに最も多く、男性で3,047人、女性で2,782人となっている。

当該世代より出生時期が遅い年齢階級ほど人口は少なくなる傾向にあり、「0～4歳」では男性で1,545人、女性で1,394人となっている。

こうした傾向は、全国の5歳階級別人口と相似の傾向にあり、現状で推移した場合、人口減少となる状況にある。

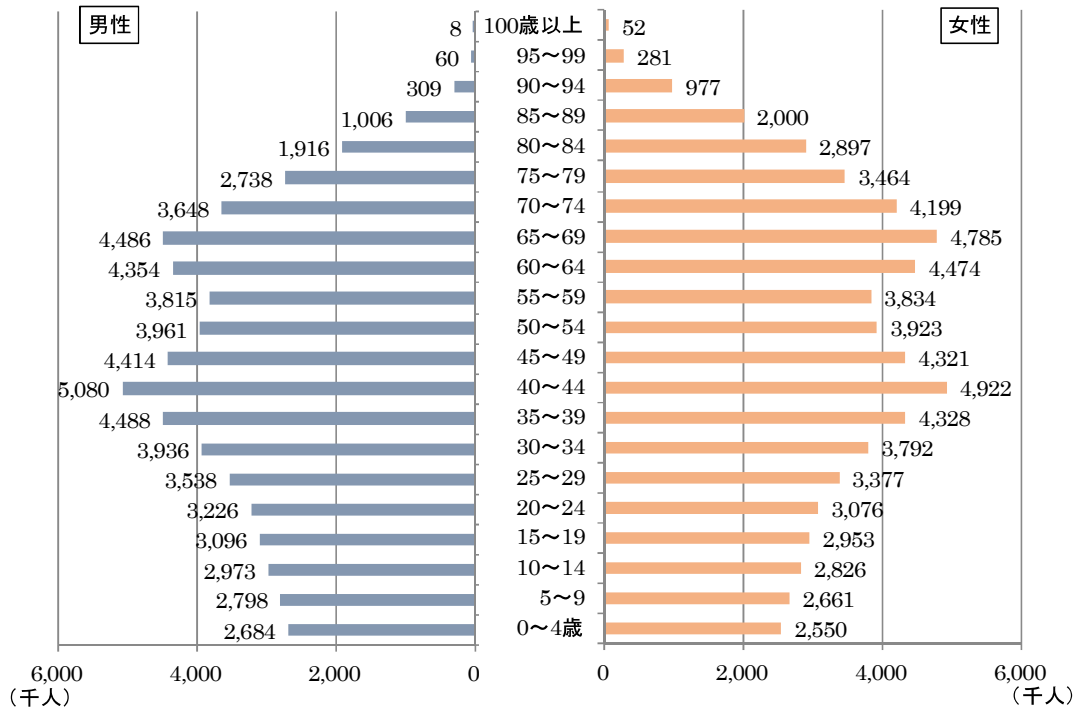
図表 1-3 豊明市の5歳階級別人口（2015年）

豊明市



(資料) 平成 27 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口

参考：全国



(資料) 平成 27 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口

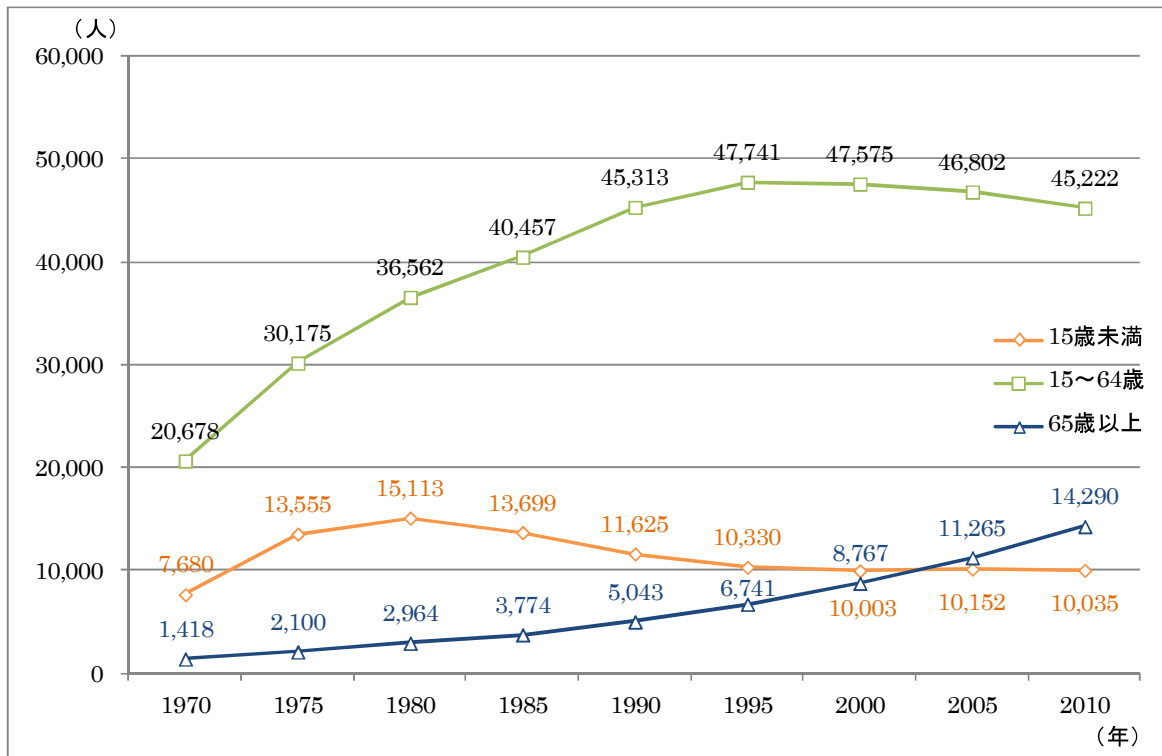
(3) 豊明市の3区分による人口推移

「15歳未満」は1980年の15,113人がピークであり、2010年には10,035人まで減少し、ピークの7割弱となっている。

「15～64歳」は1995年まで増加、47,741人をピークに減少に転じている。

「65歳以上」は1970年以降、一貫して増加傾向にあるが、特に近年の伸びが著しい。2005年には「15歳未満」の人口規模を逆転し、2010年には14,290人まで達している。

図表 1-4 豊明市の3区分による人口推移



(資料) 国勢調査

## 1-2 合計特殊出生率

・豊明市 1.42 であり、全国 1.38 を上回る水準。但し、愛知県では 1.51、また隣接市区では、名古屋市緑区 1.60、大府市 1.73、刈谷市 1.77 と高い出生率になっている。

豊明市の合計特殊出生率（自治体比較を行うため、人口動態保健所・市町村別統計；2008年～2012年ベース推定値を用いた）をみると 1.42 であり、全国の 1.38 を上回る水準になっている。

但し、愛知県では 1.51、また隣接市区では、名古屋市緑区 1.60、大府市 1.73、刈谷市 1.77 と、高い水準にあり、近隣市区の比べ豊明市の合計特殊出生率は低い状況にある。

図表 1-5 豊明市の合計特殊出生率の推移

		合計特殊出生率			出生者数
		全国	愛知県	豊明市	豊明市出生者数
平成 20 年～平成 24 年	2008～2012	1.38	1.51	1.42	2,911
平成 15 年～平成 19 年	2003～2007	1.31	1.39	1.36	3,261
平成 10 年～平成 14 年	1998～2002	1.36	1.42	1.39	3,542

（資料）人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

図表 1-6 周辺都市の合計特殊出生率（平成 20 年～平成 24 年）

		合計特殊出生率			
		豊明市	名古屋市 緑区	大府市	刈谷市
平成 20 年～平成 24 年	2008～2012	1.42	1.60	1.73	1.77

（資料）人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）



### 1-3 自然増減・社会増減

#### 〈自然増減〉

・自然増を維持しているものの、2008年以降大きく減少し2014年は35人。10年前の2004年は245人。

#### 〈社会増減〉

・戸建て分譲のあった2013年を除き、2004年以降、連続でマイナス。2014年は158人のマイナス。

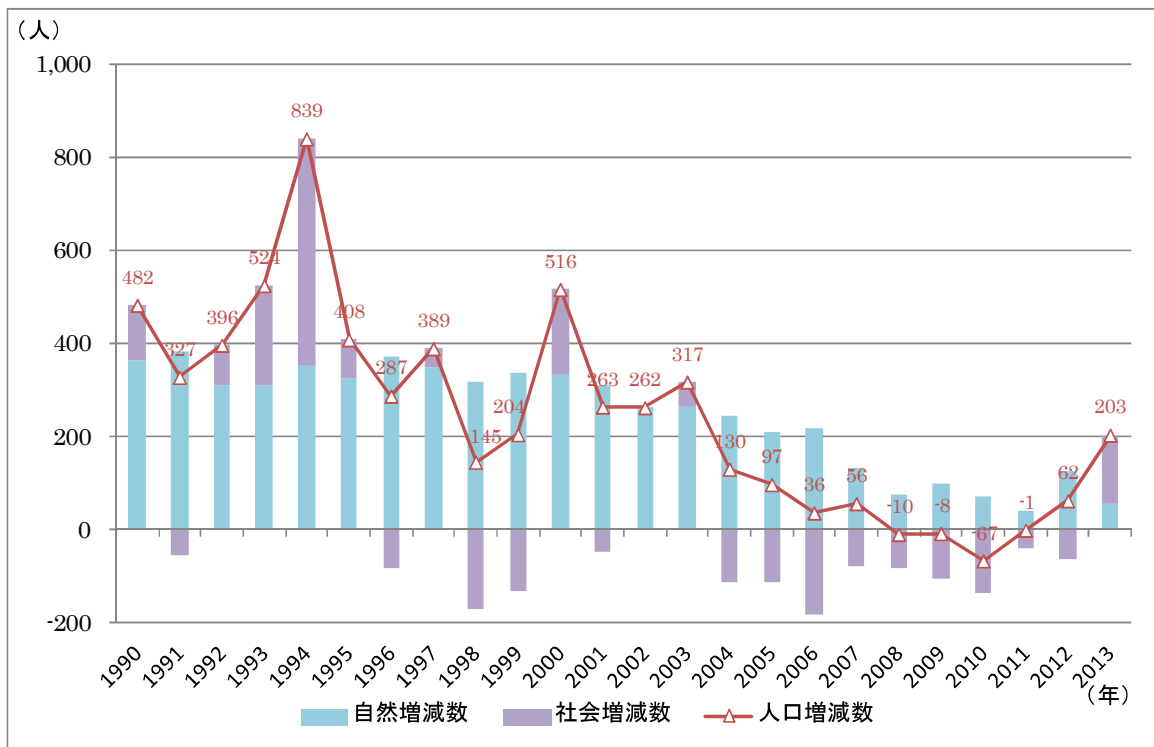
・隣接市区町（名古屋市緑区、東郷町、大府市など）が社会増を示している状況とは対照的。

・年代別純移動率（自然増減影響を控除した年代移動時の社会移動率）をみると、高校卒、大学卒、就職時に流入がみられるものの、マイホーム取得時の流出が大きいことが特徴。

#### (1) 人口増減数

人口増減数は自然増減数と社会増減数の合計数であり、豊明市では1990年以降、自然増と社会増によりプラスで推移していた。しかし、2007年の世界金融危機に端を発した国内景気の後退により2008年には社会減となり、戦後はじめて人口が減少に転じた。2010年にはマイナス67人にまで落ち込んだが、その後は回復傾向にあり、2013年にはプラス203人となっている。

図表 1-7 人口増減数の推移

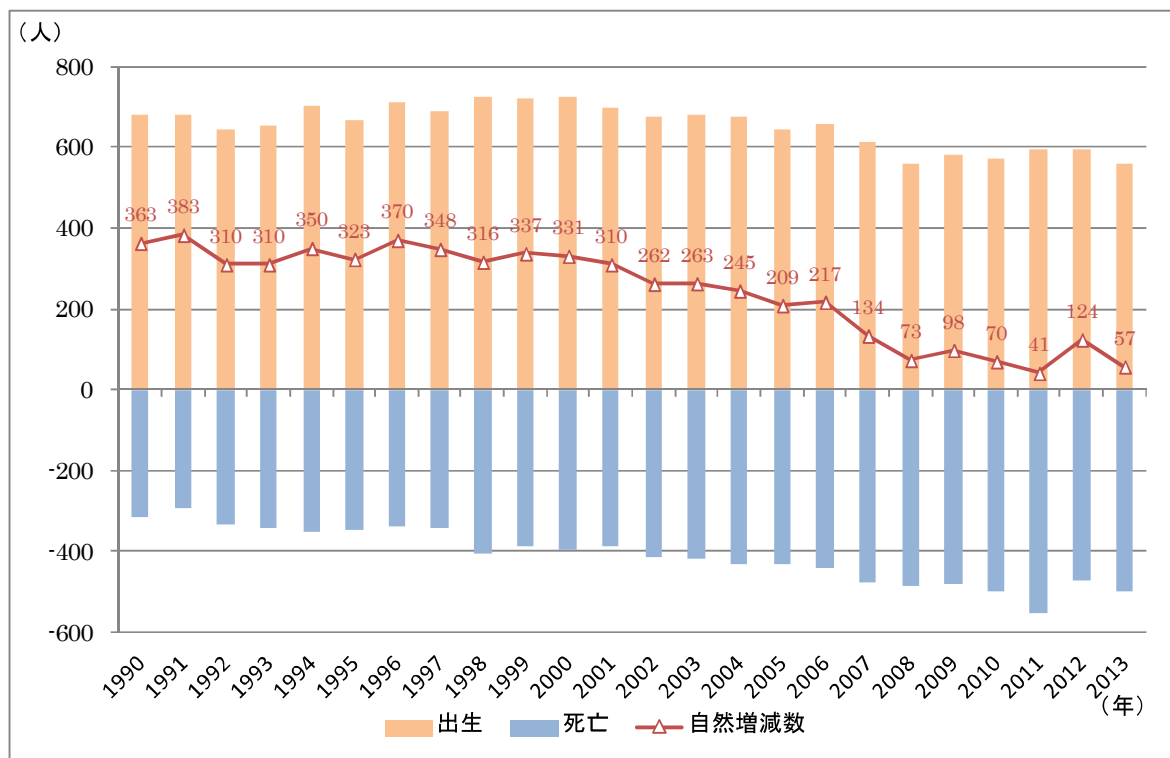


(注) 人口、世帯数は2013年まで3月31日時点、2014年以降は1月1日時点  
 (資料) 住民基本台帳

## (2) 自然増減数

少子化による出生数の減少と高齢者の増加による死亡数の増加により、自然増減数がマイナスとなるのが近年の一般的な傾向であるが、豊明市では 2013 年において自然増を維持している。豊明市における出生数は、1990 年以降、概ね 600～700 人で推移しており、極端な少子化傾向は見られなかったが、2008 年から 600 人を下回り自然減へ進行している。一方、死亡数は 1990 年に 300 人あまりであったが、その後、増加傾向にあり、2011 年には 550 人にまで増加し、自然増加数の急速な縮小の要因となっている。

図表 1-8 自然増減数の推移

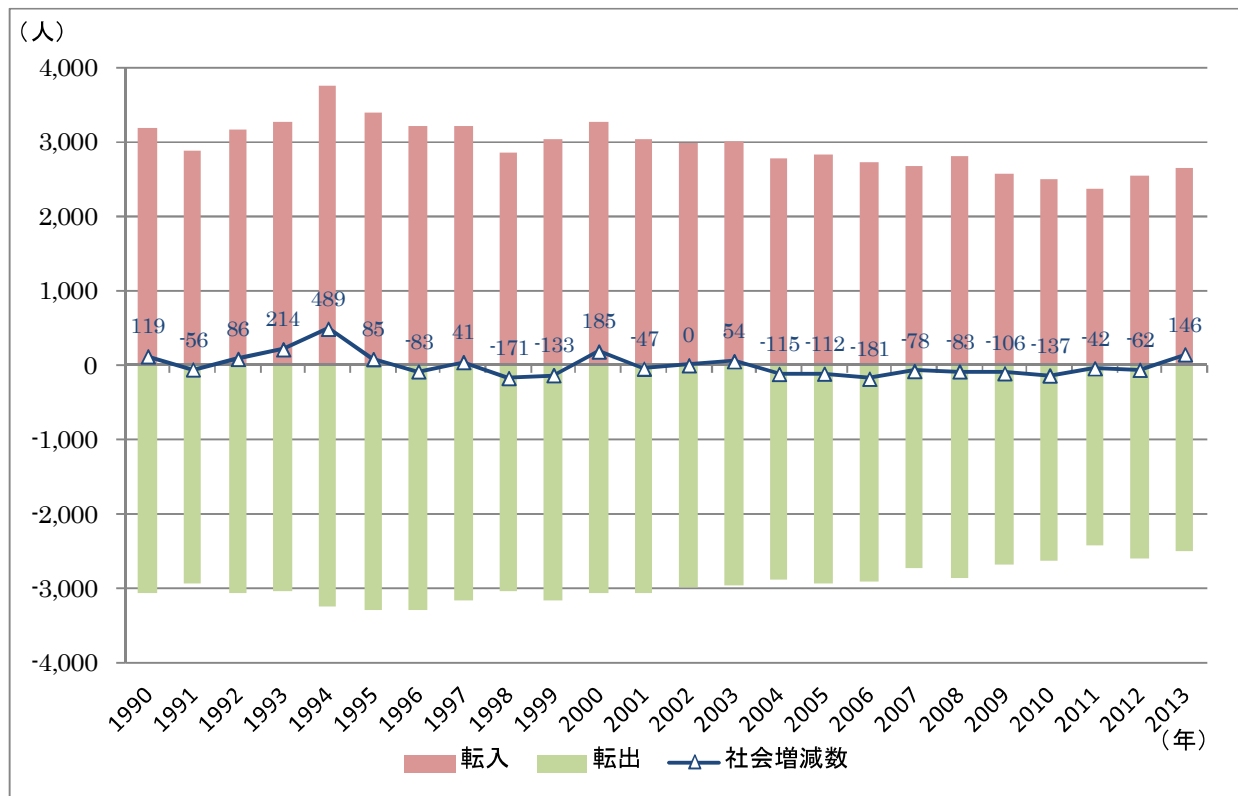


(注) 人口、世帯数は 2013 年まで 3 月 31 日時点、2014 年以降は 1 月 1 日時点  
 (資料) 住民基本台帳

## (3) 社会増減数

転入及び転出の規模は 2,000 人を越えており、出生数や死亡数の 3 倍以上となっている。社会増加数が最も大きかったのは、1994 年の 489 人であったが、2004 年にはマイナス 115 人の社会減に突入し 2012 年までマイナスが続いた。その後、2013 年には新規住宅開発などもあり 146 人の増加となっている。

図表 1-9 社会増減数の推移



(注) 人口、世帯数は 2013 年まで 3 月 31 日時点、2014 年以降は 1 月 1 日時点

(資料) 住民基本台帳

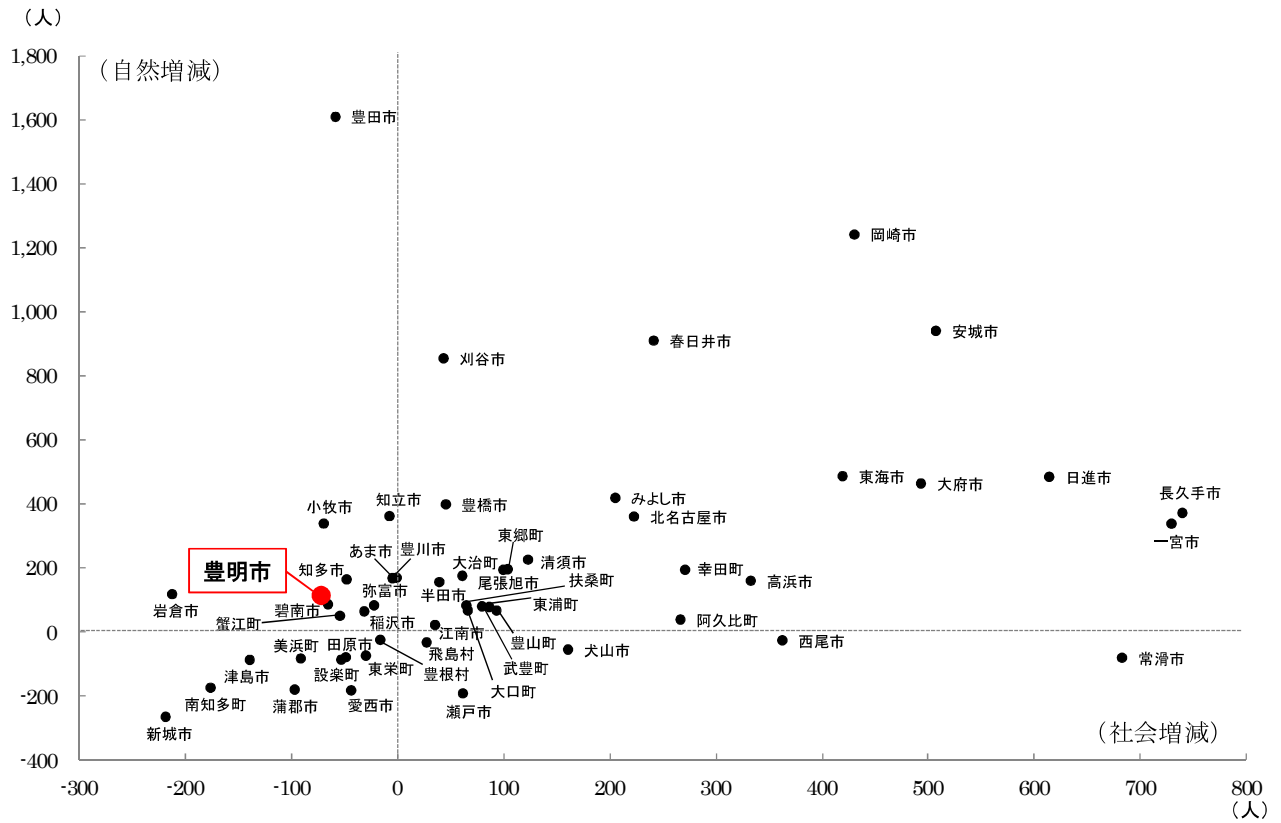
(4) 愛知県内市町村の自然増減・社会増減の状況（名古屋市を除く）

（2005 年度～2012 年度の平均）

愛知県内市町村（名古屋市を除く）における自然増減、社会増減について、2005 年度～2012 年度の平均値を比較した（図表 1-10）。

豊明市の 2005 年度～2012 年度の平均の自然増減、社会増減をみると、愛知県内にて中位に位置しているものの、社会増減では、平均を下回る水準にある。一方、隣接の犬伏市、刈谷市等をみると、社会増減、自然増減ともに、豊明市を上回る水準にある。

図表 1-10 愛知県内市町村の自然増減・社会増減の状況（名古屋市を除く）  
（2005年度～2012年度の平均）



（資料）住民基本台帳

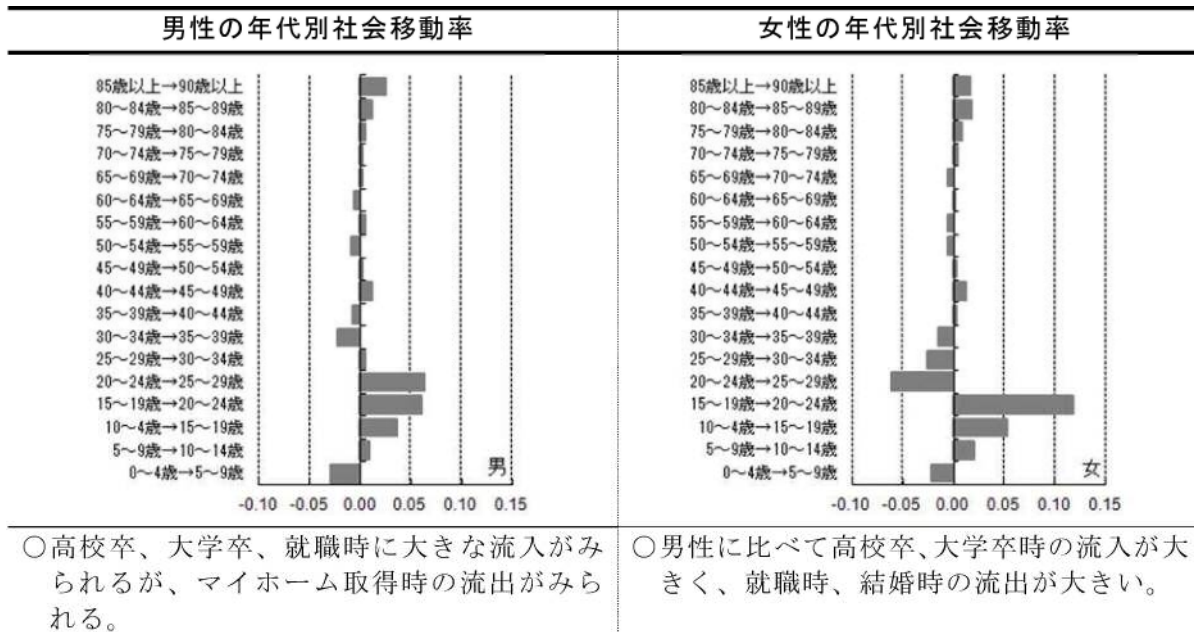
(5) 豊明市の純移動率（2010年→2015年）からみた社会増減の要因分析

豊明市の年代別純移動率（自然増減影響を控除した年代移動時の社会移動率）から社会増減の要因分析を行った。

男性をみると高校卒、大学卒、就職時に大きな流入がみられるが、マイホーム取得時の流出がみられる。また、女性についても同様に、高校卒、大学卒、就職時に大きな流入がみられるが、マイホーム取得時の流出がみられる。

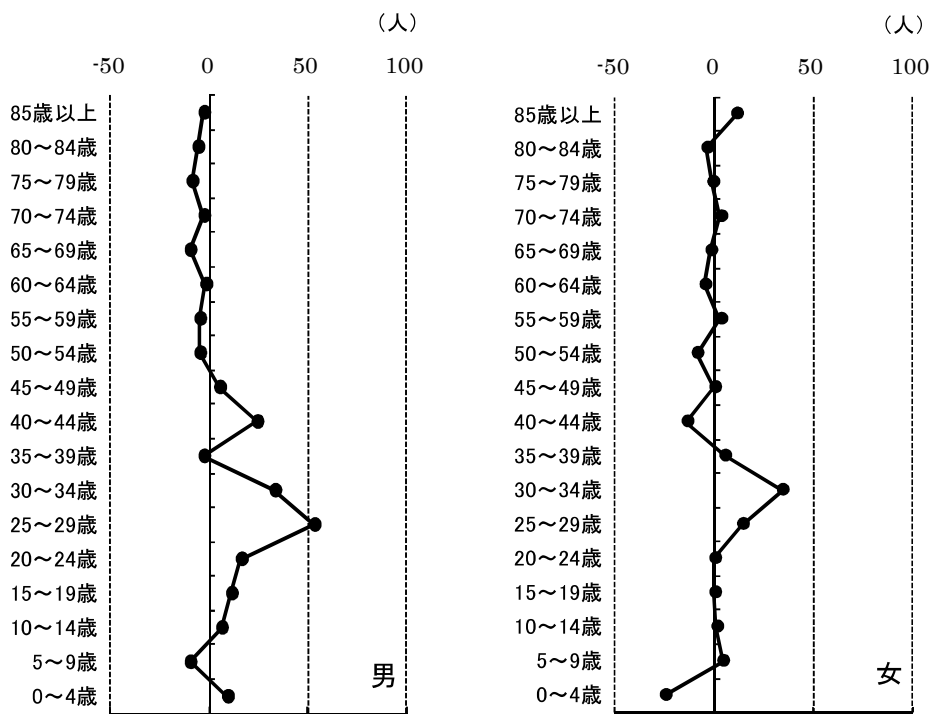
ただし、社会増となった2013年の社会増減をみると、純移動率ではマイナスであった30～34歳の増加がみられ、近年の住宅開発の効果等をみることができる。

図表 1-11 豊明市の年代別社会移動率（2010⇒2015年）



（資料）国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』

【参考】豊明市の5歳階級別社会増減数（2013年）



（資料）住民基本台帳

(6) 豊明市の都市間人口移動の状況

① 愛知県内市町村別

住民基本台帳による2012年及び2013年の人口移動について、愛知県の市町村別でみると、豊明市からの最大の転出先は名古屋市で、群を抜いており、毎年100人超が転出している。一方、転入先は、豊田市が多く、次いで刈谷市となっている。

図表-12 転出超上位5市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
名古屋市	663	794	-131	名古屋市	717	824	-107
大府市	66	98	-32	東郷町	38	73	-35
長久手市	5	24	-19	稲沢市	8	20	-12
みよし市	19	34	-15	東海市	37	47	-10
東郷町	56	66	-10	みよし市	23	33	-10

(資料) 住民基本台帳

図表-13 転入超上位5市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
豊田市	146	81	65	豊田市	162	73	89
刈谷市	178	122	56	刈谷市	181	113	68
知立市	72	44	28	岡崎市	92	65	27
豊川市	31	11	20	安城市	71	50	21
半田市	24	9	15	一宮市	26	14	12

(資料) 住民基本台帳

② 都道府県別

①の動向を都道府県別でみると、愛知県は年次により社会増減数の順位に大きな違いが見られる。しかし、東京都や神奈川県など首都圏については社会減となっている。また、社会増に寄与する従前の居住地として愛知県、岐阜県、三重県など東海圏が多くなっている。

図表-14 転出超上位5市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
愛知県	1,755	1,801	-46	神奈川県	33	49	-16
東京都	65	104	-39	千葉県	17	31	-14
神奈川県	19	47	-28	福島県	1	14	-13
静岡県	51	61	-10	宮崎県	3	13	-10
宮崎県	8	18	-10	秋田県	2	9	-7
				東京都	71	78	-7
				愛媛県	3	10	-7

(資料) 住民基本台帳

図表-15 転入超上位5市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
三重県	69	55	14	愛知県	1,821	1,770	51
京都府	20	10	10	岐阜県	89	59	30
奈良県	11	3	8	大阪府	59	34	25
広島県	12	7	5	三重県	68	50	18
熊本県	9	5	4	静岡県	49	37	12
岐阜県	82	78	4				
富山県	12	8	4				
千葉県	27	23	4				
北海道	18	14	4				

(資料) 住民基本台帳

【参考】首都圏、近畿圏への社会増減数

	2012年			2013年			
	転入	転出	社会増減数	転入	転出	社会増減数	
首都圏	119	188	-69	首都圏	137	180	-43
近畿圏	88	72	16	近畿圏	116	73	43

※首都圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県

(資料) 住民基本台帳

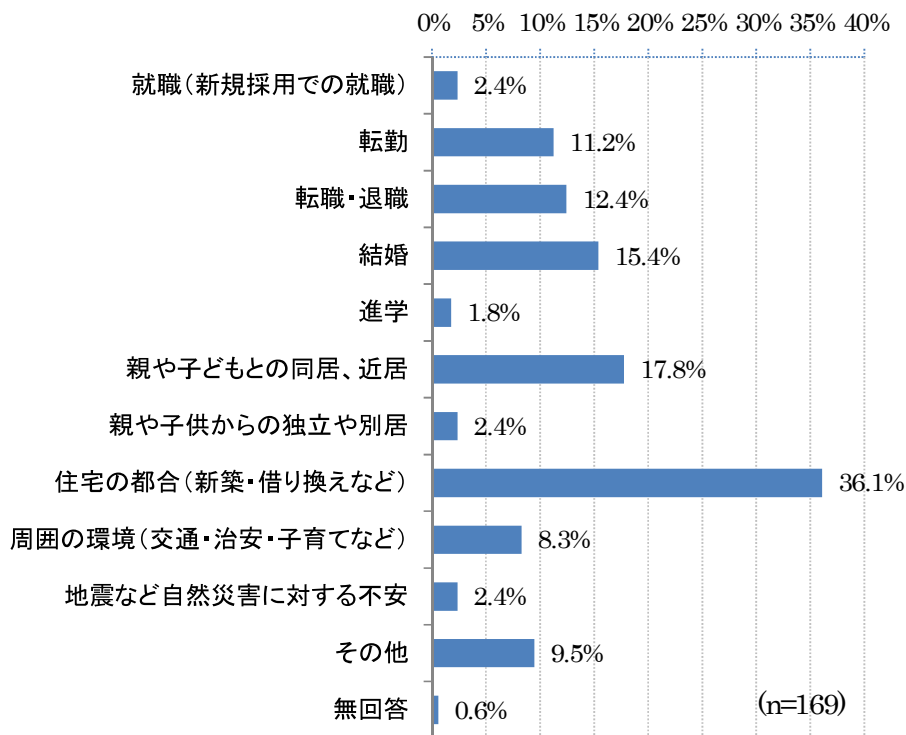
③転出理由

本人口ビジョンにあわせて実施した転出者アンケート<sup>1</sup>から、豊明市からの転出理由を分析した。

【豊明市からの転出理由（複数回答）】

「住宅の都合（新築・借り換えなど）」が（36.1%）と最も高く、次いで、「親や子どもとの同居、近居」（17.8%）、「結婚」（15.4%）となっている。一方、「就職（新規採用での就職）」（2.4%）、「転勤」（11.2%）、「転職・退職」（12.4%）の割合は低く、仕事上の都合よりも個人的な理由での転出割合が高い傾向にある。

図表 1-16 豊明市からの転出理由

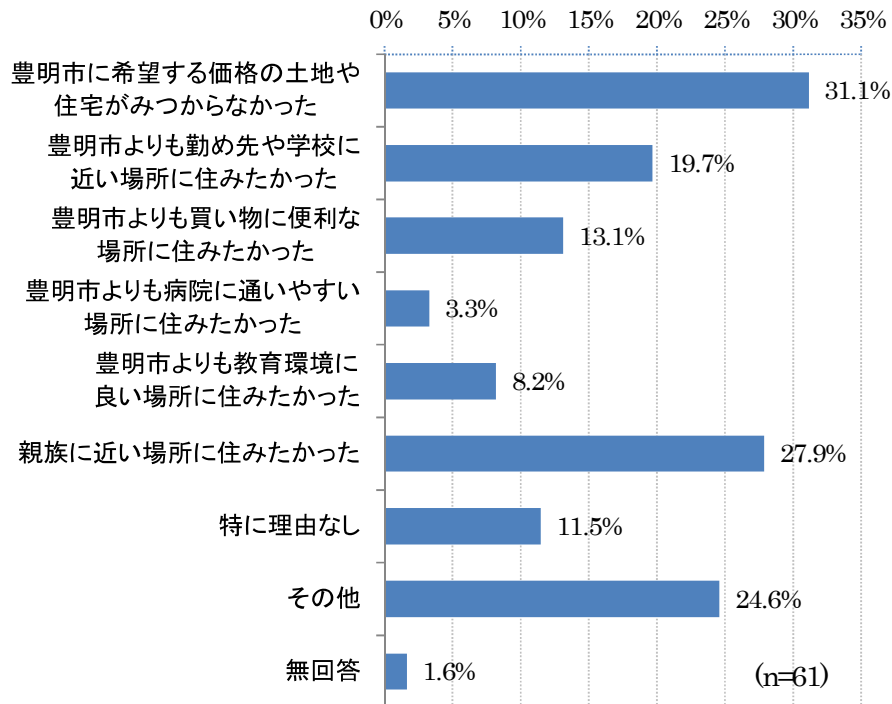


<sup>1</sup> 調査名 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 市外転出者アンケート調査  
 実施期間 平成27年8月3日(月)～8月17日(月)  
 調査対象 平成26年度に豊明市より転出された方 600名（住民基本台帳より無作為抽出）  
 回収数 169（回収率 28.2%）

【住宅の都合で転出した際の具体的な理由（複数回答）】

「住宅の都合（新築・借り換えなど）」を理由に転出した方に対して、具体的な理由を聞いたところ、「豊明市に希望する価格の土地や住宅が見つからなかった」が（31.1%）と最も高く、次いで「親族に近い場所に住みたかった」（27.9%）、「豊明市よりも勤め先や学校に近い場所に住みたかった」（19.7%）となっている。

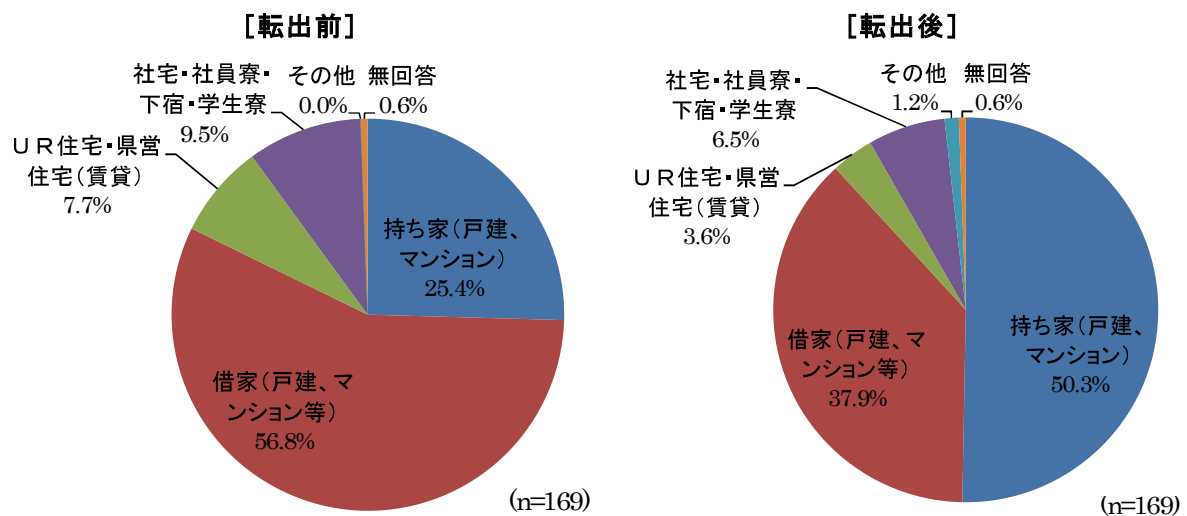
図表 1-17 住宅都合による転出の具体的な理由



【転出前と転出後の住宅所有形態について（単数回答）】

転出前は「借家（戸建、マンション等）」が（56.8%）と過半数を占めているが、転出後は約半数が「持ち家（戸建、マンション）」が（50.3%）を占めていることから、「住宅の都合」により転出した方の多くは、住宅購入を契機に転出していることがうかがえる。

図表 1-18 転出前と転出後の住宅所有形態





## 1-4 昼夜間人口

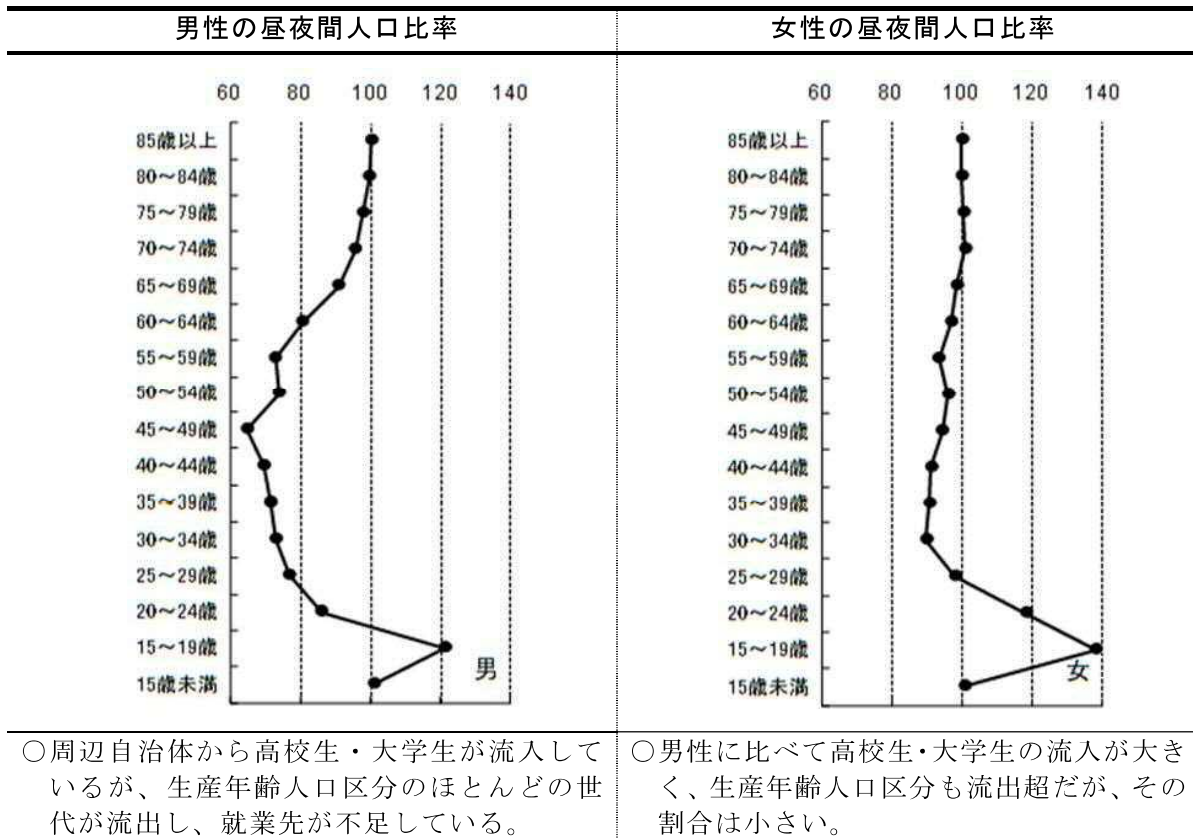
- ・ 周辺自治体から高校生・大学生が流入している状況がみられるが、生産年齢人口区分のほとんどの世代が流出。
- ・ 一方、名古屋市、刈谷市からの流入人口も多く、周辺に居住し通勤している人も多い。

### (1) 豊明市の年代別昼夜間人口比率（2010年）

豊明市の昼夜間人口比率について年代別の分析を行った（図表 1-19）。

男性については、周辺自治体から高校生・大学生が流入している状況がみられる、生産年齢人口区分のほとんどの世代が流出し、就業先の課題がみられる。一方、女性についてみると、男性に比べて高校生・大学生の流入が大きく、生産年齢人口区分も同様に流出超であるが、その割合は小さいものになっている。

図表 1-19 豊明市の年代別昼夜間人口比率

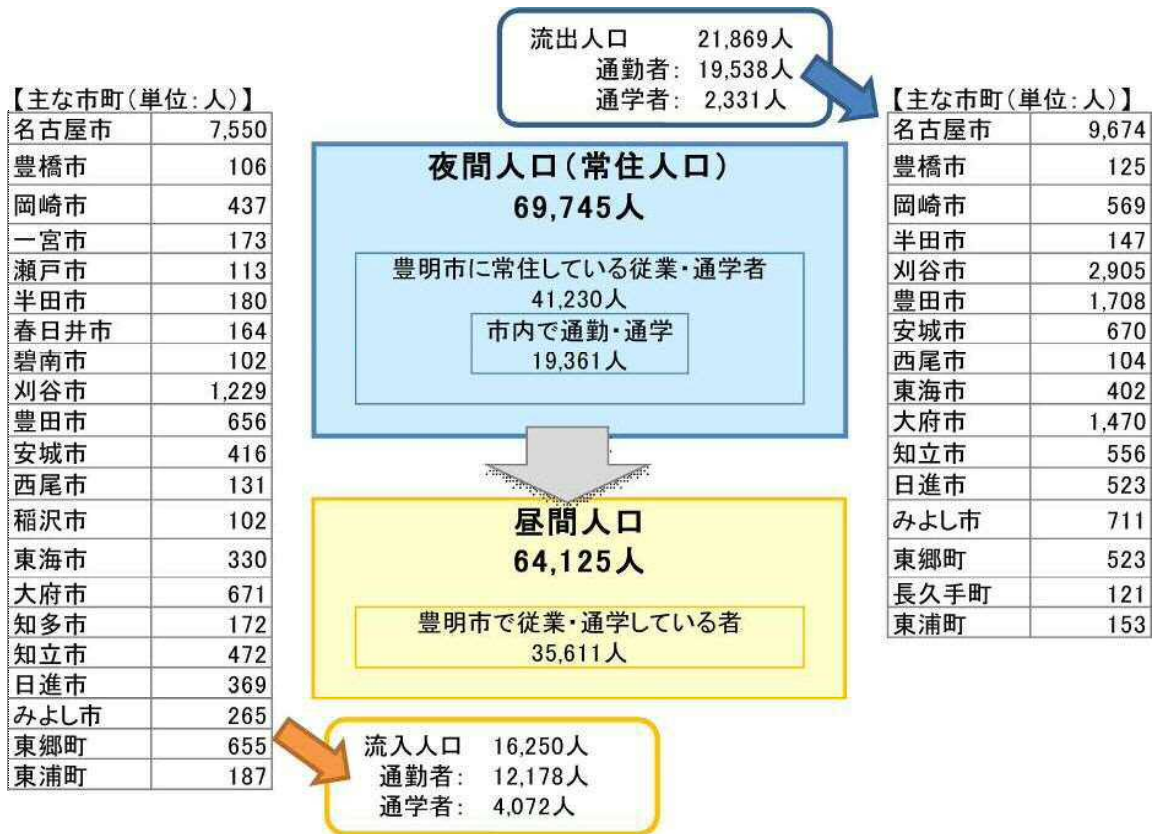


（資料）国勢調査

(2) 豊明市の通勤・通学先等の状況 (2010年)

豊明市の通勤・通学先等の状況(2010年)をみると、流入元市町村については、名古屋市(7,550人)が大きく、次いで刈谷市(1,229人)、大府市、豊田市、東郷町(いずれも600人台)となっている。流出先市町村については、名古屋市(9,674人)が大きく、次いで刈谷市(2,905人)、豊田市(1,708人)、大府市(1,470人)の順になっている。

図表 1-20 豊明市の市町村別通勤・通学先等の状況



※通勤者: 15歳以上就業者、通学者: 15歳未満通学者を含む通学者

(資料) 国勢調査

## 第2章 人口動向を踏まえた豊明市の強みと課題

ここでは、アンケート及びヒアリング（グループインタビュー）結果を踏まえて、豊明市の課題について把握を行った。

### 2-1 アンケート結果概要

#### ①市民(若者)アンケート

実施期間	平成27年8月3日(月)～8月17日(月)
調査対象	豊明市在住の16～39歳の男女 1,500名
回収数	451件 (回収率 30.1%)
調査項目	生活・住まい、子育て、結婚、就業等の意識など

#### ②市外転出者アンケート調査結果

実施期間	平成27年8月3日(月)～8月17日(月)
調査対象	平成26年度に豊明市より転出された方 600名
回収数	169 (回収率 28.2%)
調査項目	転出理由、転出前後の住宅所有形態、具体的な転出先、転出後の豊明市訪問機会と理由、豊明市への再居留意向と条件など

#### ③事業所アンケート調査結果

実施期間	平成27年8月3日(月)～8月17日(月)
調査対象	豊明市商工会会員企業 450社
回収数	115 (回収率 25.6%)
調査項目	・採用状況、育児・介護などの休業制度・再雇用制度の状況、 ・事業用地・施設需要、公的支援制度の活用、産学連携の状況について

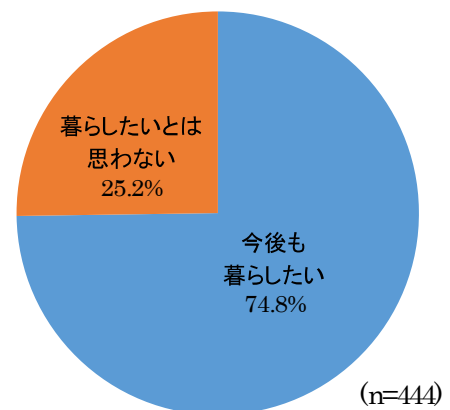
#### (1) 市民(若者)アンケート

##### ■豊明市の生活・住まいについて

○豊明市の住みごころは、おおむね満足(「大変住みやすい」「まあまあ住みやすい」の合計が(72.8%)。「今後も暮らしたい」が(74.8%)をしめており永住志向は高い。

○一方、暮らしたいと思わないとする理由(複数回答)では、「交通の便が良くない」(44.6%)、「買い物や外食が不便」(43.8%)があげられる。

図表 2-1 豊明市への永住意向



### ■子供・子育てについて

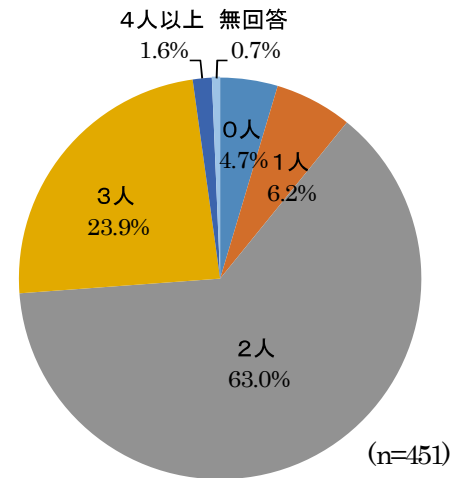
○理想の子どもの人数については、「2人」が（63.0%）と最も多く、次いで「3人」（23.9%）、「1人」（6.2%）と高いものとなっている。しかし、理想とする子供の人数が実現できるか聞いたところ、「わからない」が（51.0%）と最も多く、「はい」は（8.2%）に留まる。

○理想とする子どもの数の実現が難しい理由（複数回答）については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（30.0%）、「収入が不安定なこと」（17.2%）といった経済的な理由があげられた。

○「仕事と家庭の両立を図ることが、若い世代の子どもを産み育てやすい環境につながる」という考えについて「共感する」とする回答は（77.3%）であり、仕事と家庭の両立を期待。

○現在の職場が子育てをする人にとって働きやすさについて、プラス評価が（50.8%）、マイナス評価は（44.7%）で、ほぼ同じ割合。マイナス評価の原因は、労働時間の長さや、育児休暇等がとりづらい雰囲気など。

図表 2-2 理想とする子どもの人数



### ■婚姻について

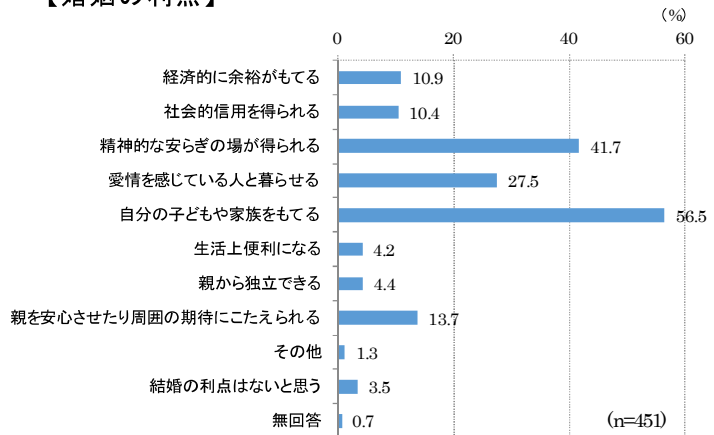
○結婚については、「自分の子どもや家族をもてる」（56.5%）、「精神的な安らぎの場が得られる」（41.7%）といった利点を認識している。

○一方で、結婚に負担を感じることにについては、「行動の自由が制約されること」（39.7%）が最も多いほか、経済的な理由（30.2%）や、仕事と家庭の両立（29.5%）をあげる方が多い。ただし、結婚については前向きに考えている。

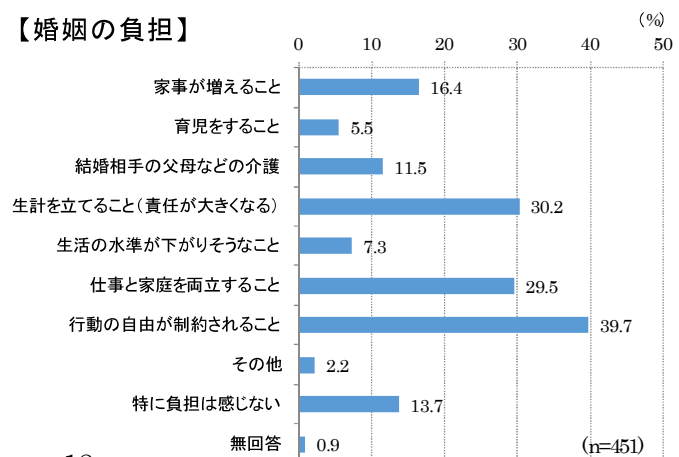
○未婚の方に、結婚しない理由を聞いたところ、「適当な相手にめぐり会わない」（42.6%）と最も多い状況。

図表 2-3 婚姻の利点と負担の認識

#### 【婚姻の利点】



#### 【婚姻の負担】



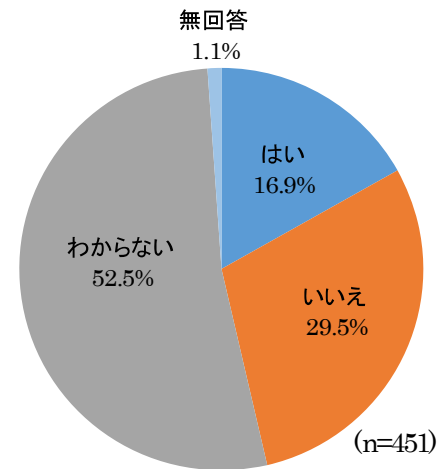
## ■就業について

○職業の選択で重視する点は、「職種、仕事内容」が(40.4%)と最も多い。

○希望業種は、「特にない」とする回答(23.7%)と多いが、「製造業」(21.7%)、「公務」(21.3%)が人気。希望職種は、「事務職」が(34.4%)と最も多く、次いで「サービス」(19.1%)、「研究・技術職」(17.1%)など、生産・技能工等の希望は(9.1%)と低い。

○豊明市内で希望の業種・職種が叶うかについて聞いたところ、「はい」(16.9%)にとどまる。「わからない」との回答が(52.5%)と最も多い状況。

図表 2-4 希望する業種・職種への就職が豊明市で実現できると思うか



## (2) 市外転出者アンケート

### ■転出理由について

○「住宅の都合(新築・借り換えなど)」が(36.1%)と圧倒的に高い状況。

○「住宅の都合(新築・借り換えなど)」を理由に転出した方の、さらに詳細な理由は、「豊明市に希望する価格の土地や住宅が見つからなかった」が(31.1%)と最も高くなっている。

### ■転出前と転出後の住宅所有形態について

○転出前は「借家(戸建、マンション等)」が(56.8%)⇒転出後は「持ち家(戸建、マンション)」(50.3%)。※住宅購入を契機に転出している。

### ■転出

○県内転出が(76.9%)。県内の転出先として「名古屋市」が(34.9%)と最も高く、次いで「刈谷市」(9.5%)、豊田市(4.1%)。県外の転出先では、東京都が(4.7%)。

### ■転出後の豊明市への訪問機会

○転出後に月1回以上豊明市を訪れる方の割合が(47.9%)であり、転出後も通勤や人間関係面で関係を有している。

### ■豊明市への再居留意向

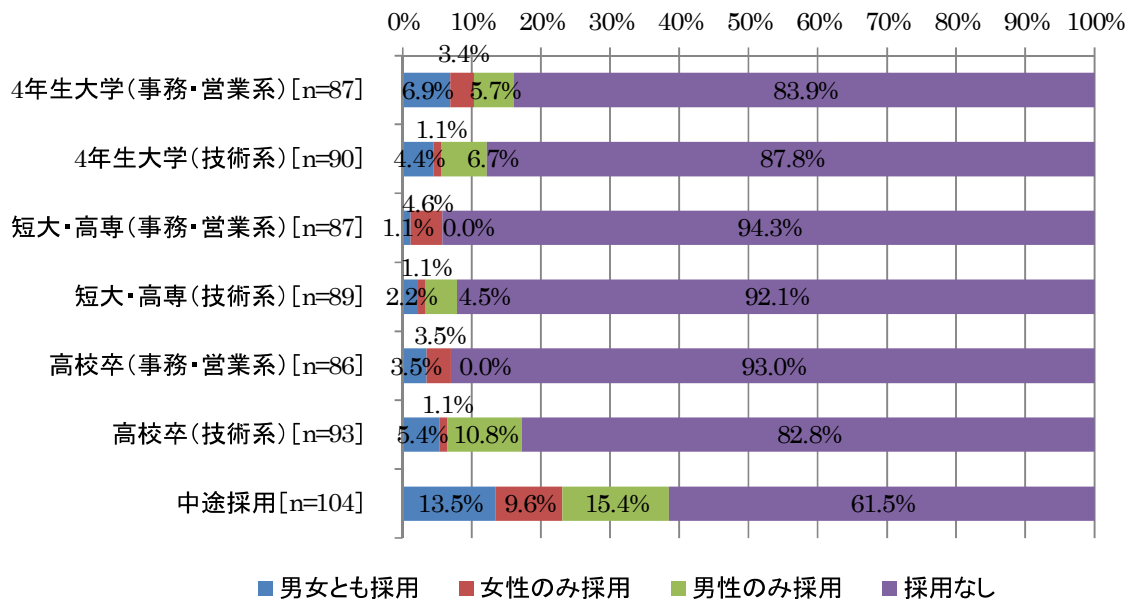
○転出者の6割が豊明市への再居留意向を有している。再居住の条件(複数回答)は、「良い生活環境があれば」(36.7%)、「良い住宅があれば」(34.9%)の割合が大きい。

(3) 事業所アンケート

■採用状況について

○豊明市内事業所の昨年（平成26年）の新規採用は、「採用なし」がいずれも8割超となっている。中途採用は約4割の企業が実施しており、即戦力としての中途採用に重点が置かれている。

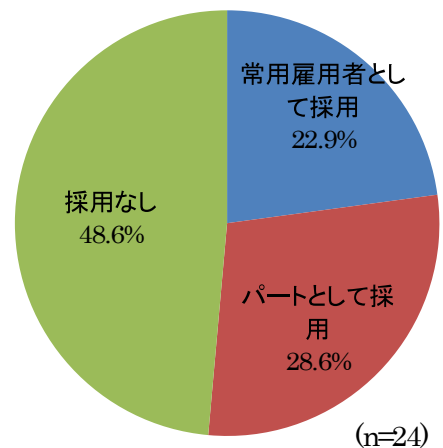
図表 2-5 市内企業の新規採用の現状（平成26年）



○但し、女性の中途採用にて、「出産・育児期」で一旦退職した女性の採用は、約半数の企業が採用なし。

○採用情勢は、新卒・中途の男性の採用、パート採用が厳しい状況になっている。採用地区をみると、県内出身者がほとんどを占めている。

図表 2-6 女性の中途採用で、「出産・育児期」に一旦退職した人の採用割合



■育児・介護休業等の休業制度・再雇用制度等について

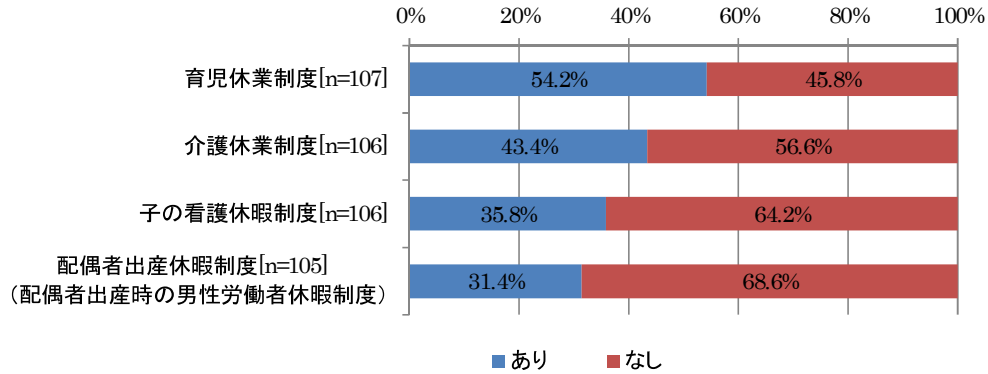
○「育児休業制度」は過半数（54.2%）の企業が規定しているが、介護休業制度、子の看護休暇制度、「配偶者出産休暇制度」は規定していない企業が過半数を占めている。

○育児休業制度の期間については、「1歳まで」が（42.3%）で、「1歳6ヶ月まで」が（36.5%）。

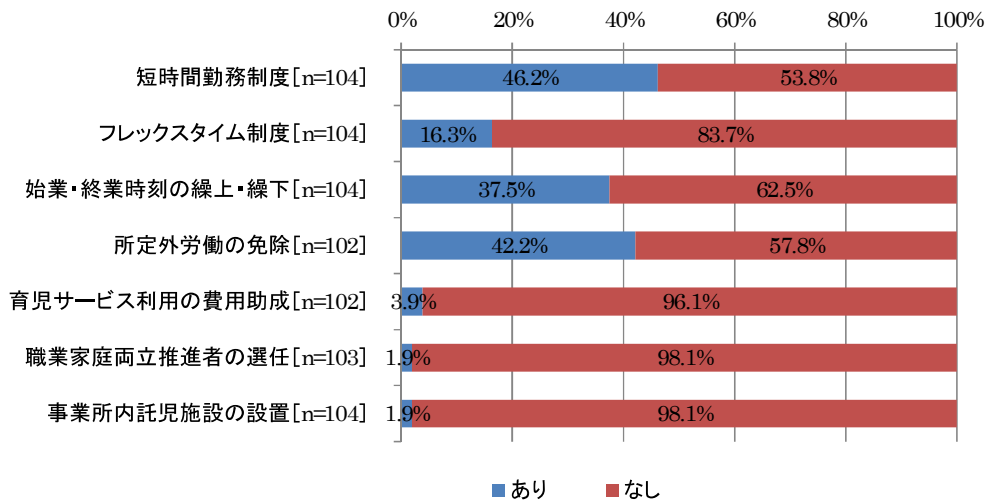
○育児に関して講じている措置は、「短時間勤務制度」（46.2%）、「始業・就業時刻の繰上・繰下」

(37.5%)、「所定外労働の免除」(42.2%)を規定する企業の割合が高い。規定していない企業の今後の予定をみると、積極的な姿勢はあまりみられない。

図表 2-7 市内企業の育児・介護制度等の導入状況



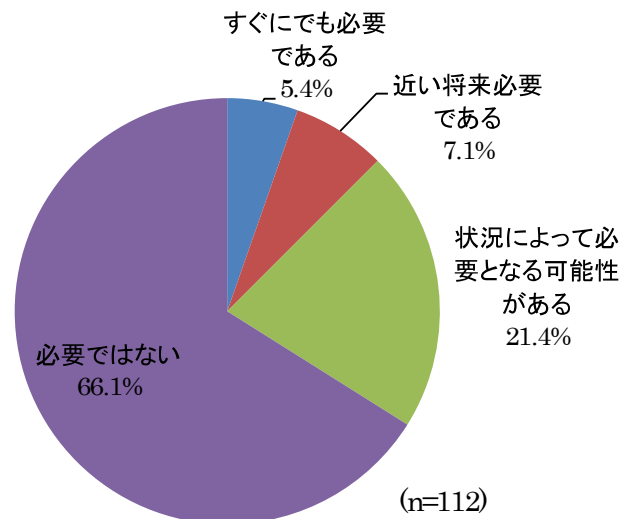
図表 2-8 市内企業の育児支援の措置



■用地、施設需要について

○豊明市内または周辺での拡張・新設用地の必要性をみると、「すぐにも必要である」は(5.4%)、「近い将来必要である」が(7.1%)、「状況によって必要となる可能性」があるが(21.4%)であり、3割以上の事業所にて用地需要がみられる。

図表 2-9 市内企業の用地需要



## ■豊明市や商工会の企業支援について

○行政の企業支援等の活用を考える際の相談先（複数回答）をみると、「銀行」が（51.8%）で最も高く、次いで「税理士・会計士事務所」、「豊明市商工会」（ともに49.1%）、「豊明市役所」（23.6%）である。

○但し、過去3年間で実際に利用・相談した実績をみると、「利用したことがない・わからない」が（55.1%）で実際の利用の動きにはなっていない。

○豊明市、豊明市商工会に対して、企業活動支援の面で期待する分野は、最も期待する分野（1位）として「経営革新・経営改善」（24.7%）が最も多く、次いで「雇用・採用」（21.6%）、「販路開拓」（20.6%）

○期待する分野に対する機能として、「補助金・助成金の情報提供」、「コーディネーター・専門家の紹介」、「制度、規制、税金などの説明」を希望する割合が高い。

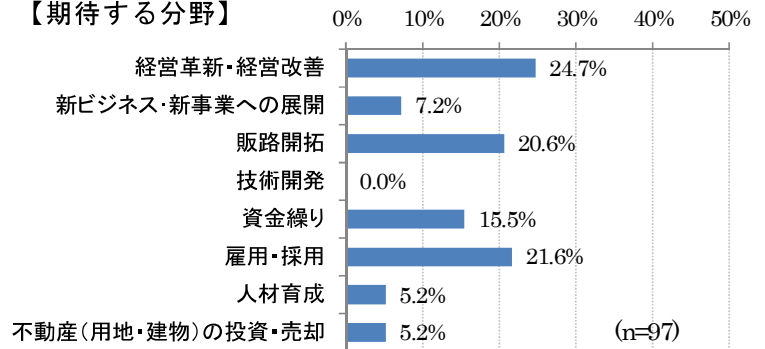
○必要と考えられる施策（複数回答）では、「雇用・人材支援」が（57.3%）と最も高く、次いで「事業継続支援」（38.5%）、「販路開拓支援」（30.2%）、「立地支援体制の整備」、「経営革新支援」（ともに22.9%）と続いている。

## ■産学連携の実施状況について

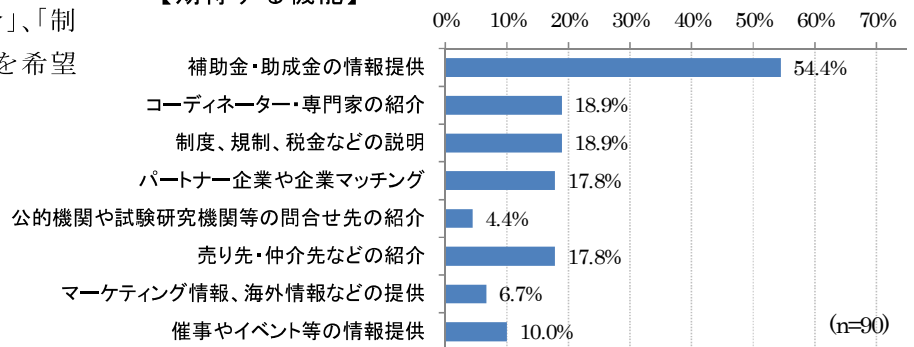
○何らかの取り組みを行っている企業は1割程度。

図表 2-10 企業活動支援の期待する分野・機能（1位回答）

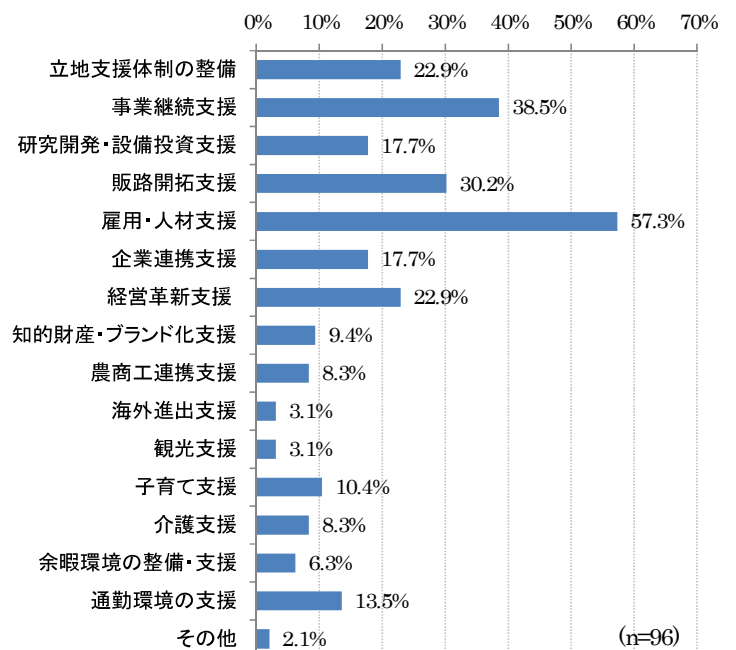
### 【期待する分野】



### 【期待する機能】



図表 2-11 必要と考えられる施策





## 2-2 ヒアリング結果概要

対象	実施日	場所	備考
市内金融機関(9機関)	H27.8.7(金)	市役所内会議室	グループインタビュー形式
企業経営者・幹部(6社)	H27.8.20(木)	〃	〃
保育園保護者(8名)	H27.8.19(水)	栄保育園	〃
高校生(7名)	H27.8.17(月)	星城高等学校	ワークショップ形式
事業者(コープあいち)	H27.8.19(水)	パルネス	個別ヒアリング

### (1) 市内金融機関（9機関）ヒアリング

#### ■住宅ローンの状況について

- 市内マンションを売却して戸建てに買い換える人が増えているが、戸建ては緑区や西三河地域で建設している。豊明市内には物件が少ないため、近隣市町村で所得するケースが多い。
- 市外からの転入によるローン需要は少ない。
- 住宅用地が限定的である。駅の近くは需要が高いが、開発用地がない。
- 駅近くでも、中京競馬場前駅近くのマンションは売れていない。子どもと一緒に遊べる施設として、もっとPRしてみてもどうか。

#### ■豊明市の人口拡大に向けて

- 名古屋市と西三河地域の間地点に豊明市は立地していることから、両地域のベッドタウンとして機能発揮することを期待。託児所、保育園、医療費、学費支援など、共働き世帯、子育て世帯を積極的に支援することが必要。
- リニア新幹線の開業を見越して、ベッドタウンとしての豊明市の魅力をアピールすることが必要。大規模店舗を核とした土地区画整理事業により、住宅用地を確保することが望まれる。
- 団地が老朽化し、高齢化が進んでいることから、若年世帯への家賃補助やリノベーションなどの対応が求められる。
- 人口拡大には働く場所が必要であり、大型商業施設や企業を誘致することが求められる。

#### ■企業の設備投資の状況について

- 中小製造業の設備投資需要は、老朽化した機械の更新需要が少しずつ出始めている。消費税増税前の駆け込みで大規模な設備投資があったが、景気の先行きの見通しが立たないため、小規模な投資となっている。
- 東京オリンピックやリニア名古屋駅周辺開発に関連する需要が出始めている。

#### ■豊明市の雇用拡大、企業誘致について

- 名古屋、西三河の間地点にあり、立地、道路条件に恵まれていることを活かすことが需要。
- 花き市場があるが、アクセスが悪い。流通の観点からも道路整備が必要である。また、道の駅などの集客施設の併設も重要である。
- 中京競馬場のイメージはあまり良くないが、イベントで人を集めて魅力的なまちづくりをすると良い。
- 藤田学園と提携して医療、人間ドック、研究で利用すると良い。藤田学園を核に独立開業する

医師を支援する。

## (2) 企業経営者・幹部（8社）ヒアリング

### ■採用環境について

- 新卒採用の人が集まりにくく、良い人材が採用できない。今いる人材の育成・教育でサポートして欲しい。
- 計画的な採用が難しい。豊明市商工会には就職希望者を共同で募ってほしい。
- 豊明市内からの応募がない。市内にどんな企業があり、どのような仕事をしているか発信が必要である。

### ■居住環境等

- 鉄道駅が3箇所あるが、いずれも市内へのアクセスに問題がある。
- 市外に居住する社員が多いため、家賃補助など市外に住む社員が豊明市内に転居するようなインセンティブがほしい。

### ■販路開拓や技術開発の環境づくりについて

- 商工会が技術開発ニーズなどを取りまとめて紹介してほしい。また、1社では対応できないニーズを情報共有できれば、他社と共同で問題解決できる可能性がある。
- 国の支援制度等を紹介してほしい。

### ■操業環境について

- 交通アクセスが悪く、道が狭いところがある。
- 用途地域により工場の拡張や新しい設備の導入が難しいので、用途変更をお願いしたい。
- 市の業務委託を出来るだけ地元業者でやって頂きたい。地元経済の活性化に繋がる。

## (3) 保育園保護者（8名）ヒアリング

### ■豊明市の子育て環境について

- 良い点 保育園の充実・入園のしやすさ、赤ちゃん訪問、身近な図書館など
- 困った点 病後児保育、育休時の退園ルール、ゼロ歳児保育の受入施設、図書館の絵本数、子ども連れの利用しやすいスーパーマーケット（エレベーターやベビーカーが充実していない）、公園の安全対策など
- 期待する子育て支援サービス  
児童クラブの受入学年、予防接種の無料化、1ヶ月検診での母親受診料の軽減など

### ■仕事と子育ての両立について

- 困った点 年度途中の入園が認められない  
復帰1ヶ月前からならし保育の対応がない  
子どもを預かってもらえる時間（現状7:30～18:30）が足りない
- 期待する子育て支援サービス  
週のなかで弾力的に通園日を選べるような保育園がほしい  
パルネスのなかに子育て支援センターがあるとよい

児童館の夏休みのお弁当が予約制になっているが、柔軟な対応をしてほしい  
児童館の場所（小学校近くか校舎内を希望）  
男性向けの子育て支援の充実（土日のセミナーなどで気付きを与える）

#### ■女性が活躍できる環境づくりについて

- 期待する会社像 社内託児所の充実  
職場の意識改革  
定時で帰宅できる会社 など
  
- 市への期待 企業・職場の子育てに対する理解を深めるような支援  
ライフワークバランスに対する企業の意識づくり  
子育て世帯への取組を先進的に行っている企業の表彰  
子育てに理解のある企業の求人紹介制度  
職場での母親教室の開催など

#### (4) 高校生（7名）ヒアリング

##### ■将来の自分と豊明市の関係について

- ・大学に行ったり、資格を取るには豊明市にいたら無理だと思う
- ・豊明市には IT 関係やコンピュータ関連の企業が少ない
- ・デザイナーになりたいが、豊明市からでて大都市にでた方が有利
- ・田んぼが多くて田舎過ぎるから、都会に住んでみたい
- ・たくさんお店のある場所に住みたい

##### ■豊明市の課題について

###### ○都市環境について

- ・駅からの交通が悪いことが課題
- ・他県や県内から多くの人があるような施設や名所などが無い
- ・団地に若い人が住みづらい
- ・前後駅は便利なので、もっと活性化させてほしい。
- ・前後駅は、通学の学生で朝は大変混雑している

###### ○職場

- ・豊明市にどんな企業があるか知らない。看板を大きくみせるなど工夫してほしい。
- ・地元の職場をもっと知る機会を増やしてほしい

###### ○その他

- ・バランスが良い街ということを PR してみてもどうか  
（都会に行けて住みやすいまち、自然とまちのバランスがよいなど）
- ・豊明市は街のイメージがないことが課題である

## 2-3 人口動向等を踏まえた豊明市の強みと課題

第1章の豊明市の人口動向の現状分析、アンケート結果、ヒアリング結果を踏まえて、豊明市の強みと課題の整理について、図表 2-12 に整理を行った。

図表 2-12 豊明市の強みと課題

	強み	課題
自然増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛知県及び隣接市区は、全国平均を大きく上回る合計特殊出生率を確保しており、豊明市においても出産や子育て環境等の整備により、合計特殊出生率をあげる余地が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若いファミリー層の市外転出により、出産世代の人口が減少している。</li> <li>○1970年代に転入した世代が多いため、急激な高齢者の増加が見込まれる。</li> <li>○隣接地区と比べ、合計特殊出生率が低い。</li> </ul>
社会増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校、大学が集積し、周辺からの通学流入がみられる。</li> <li>○豊田市、刈谷市からの転入が多く、周辺の成長都市の住宅地として可能性が見込まれる。</li> <li>○戸建て分譲があった年次は、社会増加となっており、良い物件があれば、転入増が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住宅取得を契機とした転出が多くなっており、若いファミリー世代が減少している。周辺の社会増の状況とは対照的であり、新規住宅供給が課題。</li> </ul>
地域構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名古屋市と西三河地区の間にあり、成長都市に囲まれている。リニア新幹線の供用に伴う名古屋駅のビジネス集積の高まりにあわせた活性化が期待できる。</li> <li>○通勤環境に恵まれており、周辺市町間での通勤・通学が多い。</li> <li>○大学や医療機関が充実している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市街化区域内の人口密度が高く、新たな住宅供給の余力がない。</li> <li>○雇用吸収の拠点となる産業集積が乏しい。</li> <li>○都市イメージの発信力が弱い。</li> <li>○都市としての拠点がはっきりしない。</li> </ul>

## 第3章 目指すべき方向性と人口の将来展望

### 3-1 めざすべき方向性

- 若いファミリー世代を中心に、市内の住宅供給不足から住宅取得を契機とする周辺市町への転出が続いている。現状が推移すれば、人口減少が一層進むこととなるため、この流れを是正し、若い世代の転出抑制や転入を目指す必要がある。
- 近隣には、リニア中央新幹線供用（目標 2027 年）に向けた名古屋駅周辺再開発、西三河地域のものづくり産業の集積・高度化した地域がある。本市の伊勢湾岸自動車道、国道 1 号、23 号、名鉄名古屋本線など交通アクセスの良さを活かした企業誘致など産業活性化の取組みを進める必要がある。

### 3-2 人口の将来展望

#### ◆人の流れを変える 人口の流出に歯止めをかけ、流入を目指す

- 近隣市町では多くの住宅が供給されており、豊明市内の住宅不足から若いファミリー世代の住宅取得の選択肢から外れてしまっている。必要な住宅を供給するなど人口流出を抑制することが急務。
- 名古屋市や西三河地域の諸都市に近接する恵まれた立地環境を活かし、若い世代に受け入れられる住宅供給を図り人口流入を目指す。
- 近隣から豊明市内の職場に通勤している従業員の市内居住を進めていくことが必要。

#### ◆出生率を向上させる 安心して出産、子育てができる環境、社会づくりを進める

- 国の「長期ビジョン」では、若い世代の結婚・子育ての希望が実現すれば、わが国の合計特殊出生率は 1.8 程度まで向上するとしており、豊明市においても、若い世代が希望する子どもの数に達していない。目標の合計特殊出生率 1.8 を念頭に置きつつ、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境の充実を図っていくことが必要。
- 女性が出産、子育てしながら働き活躍できる社会づくりに向けた取り組みを、行政と企業が一体的に進めることが必要。

#### ◆活力ある地域をつくる 選ばれるまちになるために、まちの魅力を高める

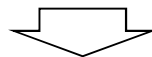
- 子育て世代と高齢者の双方にとって、魅力的で、誇りや生き甲斐につながる教育環境を提供し、「学びのまち」としていくことが必要。
- 次世代の人材育成など地域産業の活性化、次世代自動車産業・ヘルスケア産業・ロボット産業等の地域特性を活かした産業の誘致・育成を図り、持続的な雇用機会の確保と、若者・女性にとって新たな職場づくりを進めることが必要。
- 住みたい都市、住み続けたい都市とするため、駅前等の生活利便施設の充実とともに、都市ブランド・都市イメージの拡充を図り、まちの魅力を発信していくことが必要。

### 3-3 豊明市人口の長期的な見通し

総合計画にて実施した基本推計（現状推移ベース）では、2020年以降、人口減少となり20年後の2035年は、63,400人、45年後の2060年は50,500人まで人口減少が進むものと予測された（基本推計）。人口ビジョンでは、駅前マンション分譲、計画予定の区画整理事業、既存住宅活用等の施策を積極的に進め、2035年に68,400人、2060年も61,000人を確保する見通しを得た。

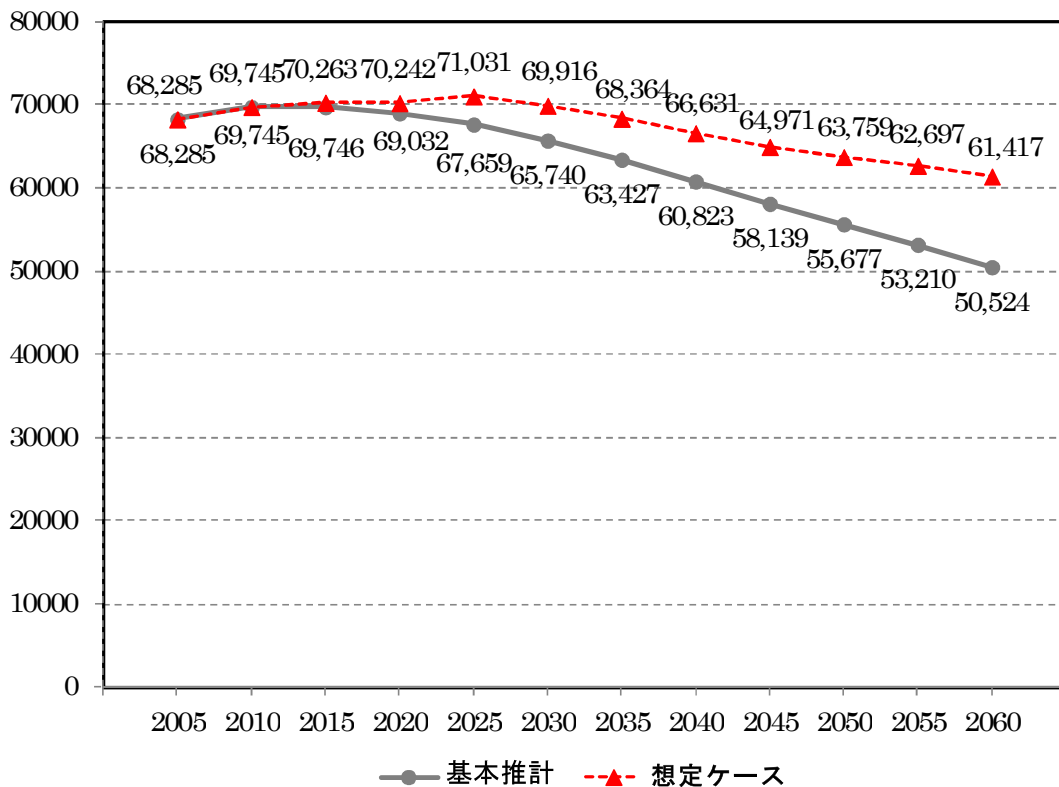
【前提条件】

- 基本推計(趨勢による推計)
  - ・出生率 現状程度で推移（住基から算出した1.39で推移）
  - ・社会移動 現状で推移（若い世代が継続流出）
- 想定ケース(施策実施後の推計)
  - ・出生率 2040年に1.8に上昇
  - ・社会移動 計画予定の区画整理事業などの開発付加を想定



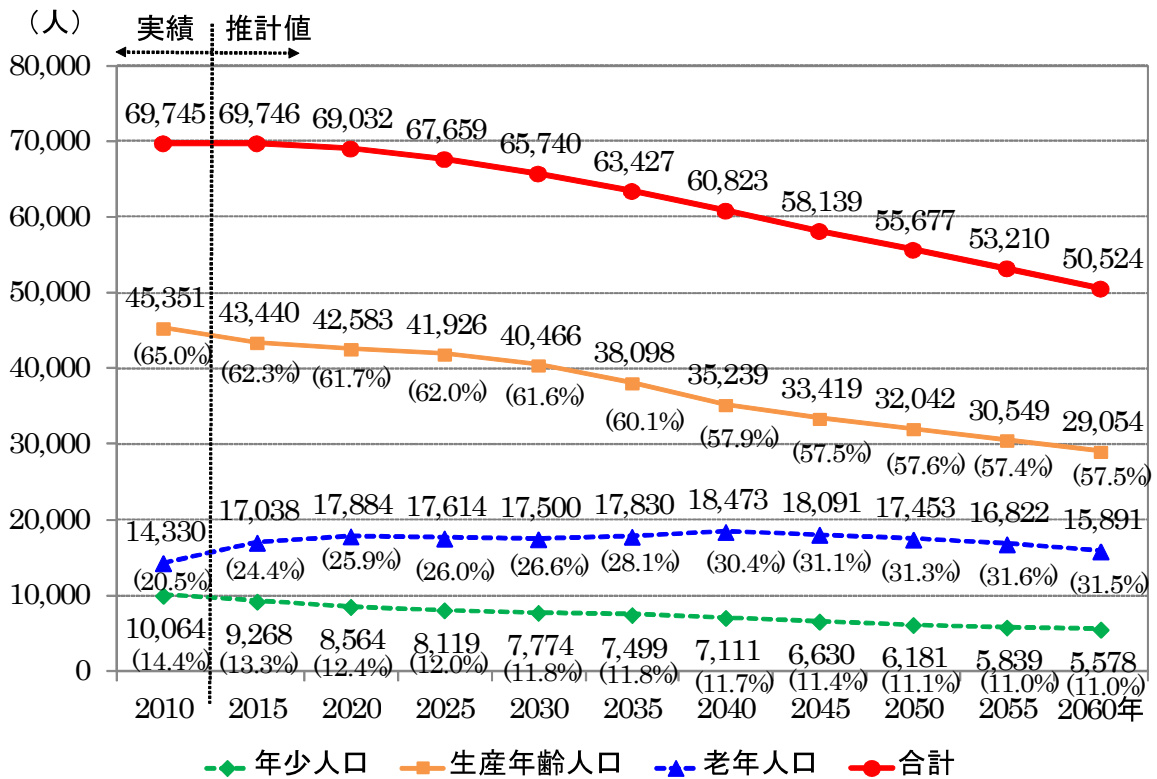
想定ケースが実施できれば、2025年に71,000人、2035年には68,400人がそれぞれ確保でき、2060年も61,000人を確保できる。また、人口ピラミッドも安定的なものに推移し、持続的な地域運営が可能になる。

図表 3-1 豊明市の人口推計結果

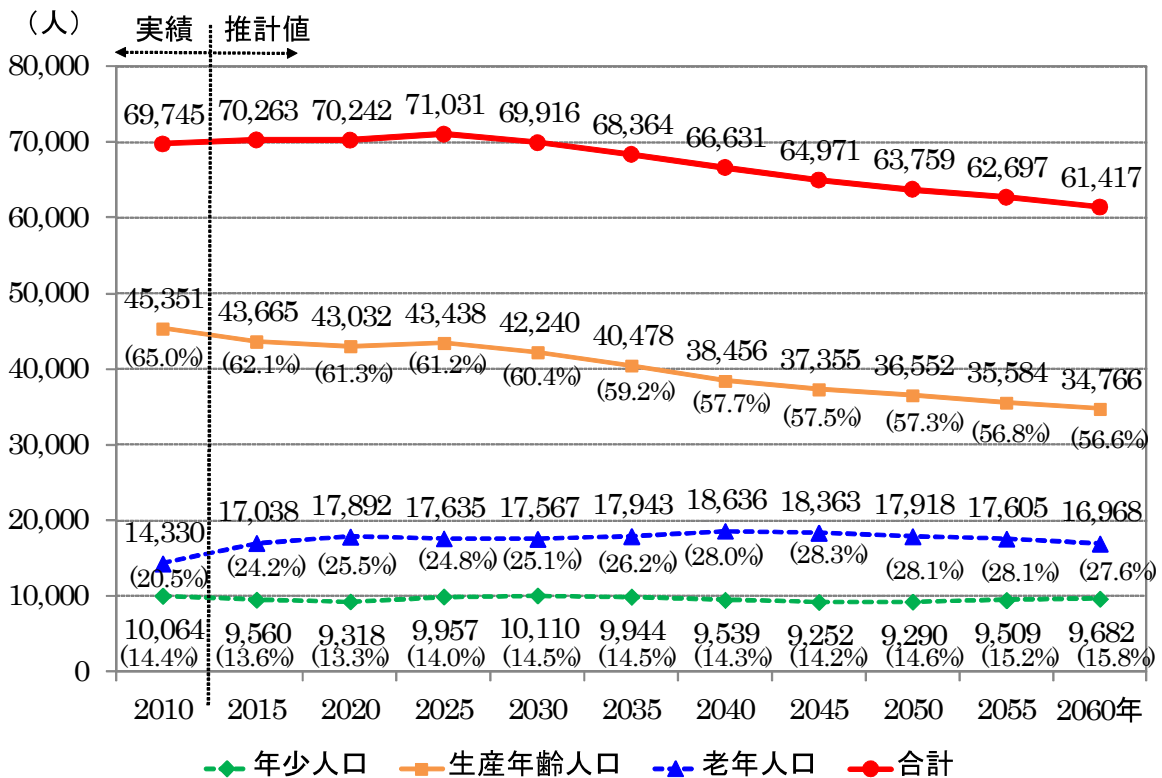


図表 3-2 年齢3区分別の人口推計結果

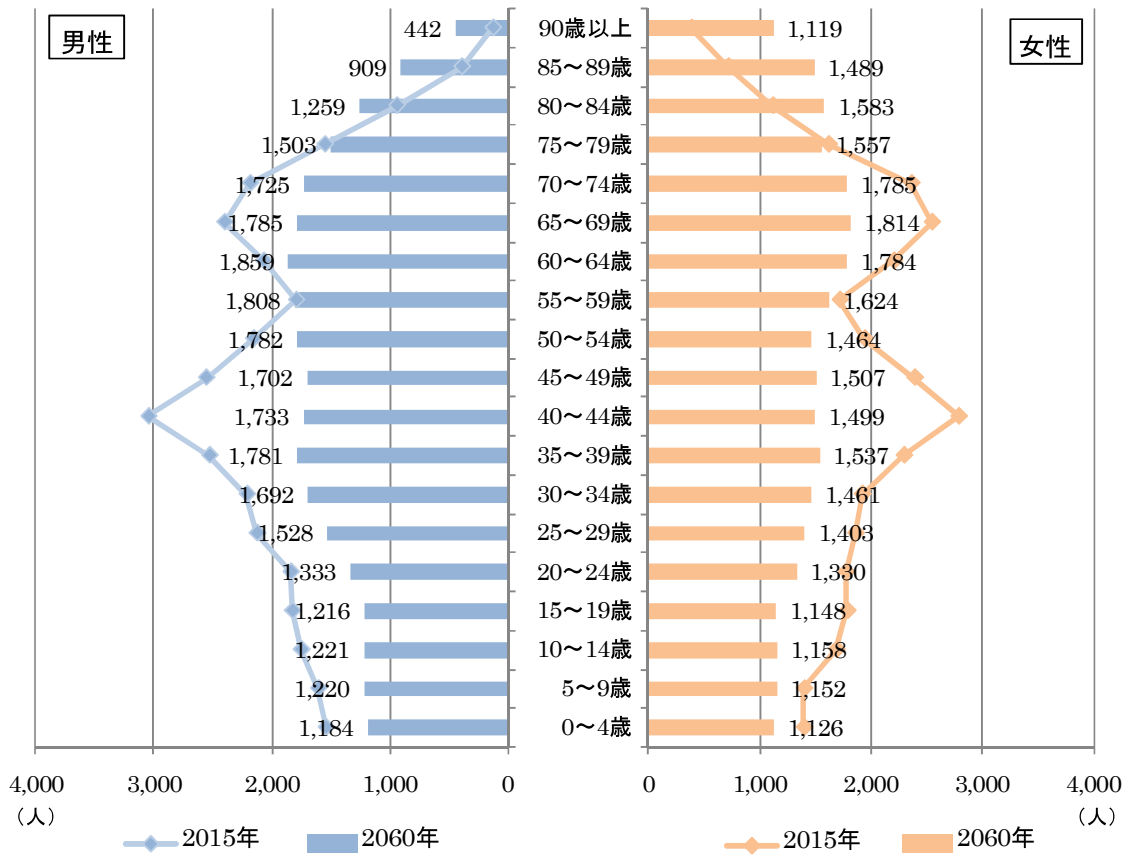
基本推計（趨勢による推計）



想定ケース（施策実施後の推計）



図表 3-3 人口ピラミッド 現状と将来



(注) 2015年の折れ線グラフは、現状の人口ピラミッドを示したもので、住民基本台帳年齢階級別人口（平成2015年1月1日）によるもの。



# ■まち・ひと・しごと創生総合戦略

## はじめに

### 1. 総合戦略策定の趣旨

国は、人口急減・超高齢社会の到来、更なる少子化の進行などの対策として、①地方における安定した雇用と労働環境の確保、②地方へ新しいひとの流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える、④それらを可能にする時代にあった安心な暮らしや魅力ある地域づくり、の4つの目標を掲げています。

そのため、豊明市における人口の現状と将来展望を提示する「人口ビジョン」とともに、将来にわたって活力のある地域社会を維持するため、今後5年間の目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

### 2. 総合戦略の概要と期間

#### (1)総合戦略の概要

豊明市では、国の掲げた4つの目標を基に、市の基本目標を

①しごと活力創生プロジェクト

～若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる～

②ひとが集うまち創生プロジェクト

～誰もが訪れたい、住みたいと思うような、ひとが集う魅力あふれるまちをつくる～

③子どもの学びと育ち創生プロジェクト

～教育環境を整え、子どもを安心して産み育てられるまちをつくる～

④暮らしの満足創生プロジェクト

～医療環境、公共交通などを充実し、暮らしの満足度の高いまちをつくる～

とし、本市が抱える地域課題の解決のため、平成28年度から始まる第5次豊明市総合計画との整合性をとりながら取組んでいきます。

#### (2)策定期間

総合戦略の期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

# 1. 豊明市における安定した雇用を創出する

## しごとと活力創生プロジェクト

### 若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる

(1)基本目標の概要		
<p>豊明市の雇用を支え続けることができるよう、市内企業の持続的な経営のための支援や、活発な起業・創業を促す環境を構築します。</p> <p>併せて、企業誘致や地域ブランド商品の開発、販路拡大等、地域産業の活性化を図ります。</p> <p>また、若者が豊明市で暮らし、働き続けるため、学生のインターンシップや市内事業所の情報発信、若者と企業のマッチング支援、社宅整備支援などを進めていきます。</p>		
指標	基準値	目標値(H31)
法人市民税額(千円)※	687,361(千円)	699,370(千円)
起業・創業件数※	80件	100件
市内就業者のうち市内在住者数※	1,529人	1,775人
市民のうち市内で働きたいと思う若者の割合※	48.3%	55.8%

(※：第5次豊明市総合計画のまちづくり指標を用いています)

(2)講ずべき施策に関する基本的方向
<p>施策1：地域の経済活動が盛んなまちをつくる</p> <p>施策2：若い人たちの地元での就労を促進する</p>

(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標			
<b>【施策1】 地域の経済活動が盛んなまちをつくる</b>			
① 魅力ある職場づくりを促進する			
<p>商工会、大学と連携した市内での起業・創業に対する支援体制の整備や市内企業及び人材の育成支援を図り、若い人にとって魅力ある職場づくりを促進します。</p>			
具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○後継者育成・マッチング事業	マッチング件数	0件	20件
○起業・創業者支援事業	創業支援事業計画の支援を受けた人(団体)の数	0件	200件
○空き店舗を活用した活性化事業	空き店舗活用補助件数	0件/年	2件/年
○市内中小企業の人材育成支援事業	人材育成支援事業受講者数	0人	20人

**② 産業の活性化を図る【重点施策】**

企業誘致を推進するとともに、ひきずり鍋に続く市内の資源をブランディング化した商品開発を行い、市の特産品としてPRする場や機会を創出し、地域の産業活性化を図ります。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○企業立地支援事業	新規立地企業数	0 企業	10 企業
○道の駅設置検討事業	計画策定の進捗状況	—	計画策定
○とよあけブランドづくり開発事業	地域ブランド化商品数	1 商品	15 商品

**【施策2】 若い人たちの地元での就労を促進する**

**① 若い人たちと企業をつなぐ仕組みをつくる**

若い人たちが、市内の企業について知ったり、体験できたりするような場や機会を商工会や近隣自治体との連携等によって創出するとともに、就職後も働きやすくなるための支援を行い、若い人たちが地元で働けるような環境を整備します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○職場体験事業	職場体験の受入企業(事業者)の延べ件数	216 企業	256 企業
○インターンシップ制度支援事業	受入参加企業、団体数	0 企業	10 企業
○市内企業への就職活動支援事業	企業合同説明会等の年間開催回数	0 回	5 回
○社宅整備等企業支援事業	社宅補助の年間件数	0 件	10 件

## 2. 豊明市への新しいひとの流れをつくる

### ひとが集うまち創生プロジェクト

誰もが訪れたい、住みたいと思うような、ひとが集う魅力あふれるまちをつくる

#### (1)基本目標の概要

名古屋市に隣接する立地特性を活かした若年世代や子育て世帯の定住を促進するため、駅周辺における住居系の市街地整備、三世帯同居・近居、空き家の活用などを推進する。

また、花の街とよあけとしての魅力を高めるとともに、古戦場を活かしたまちづくりを進めるなど、豊明市の特徴的な地域資源のさらなる磨き上げを図り、「通過するまち」から「足を運んでいただけるまち」への発展を図る。

指標	基準値	目標値(H31)
転出者数（年間）※	3,281人	2,996人
転入者数（年間）※	3,327人	3,626人
桶狭間古戦場関連の観光客数（年間）	44,000人	50,500人
ふるさと納税の寄附金額※	92(千円)	50,000(千円)
市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数※	123件	148件

（※：第5次豊明市総合計画のまちづくり指標を用いています）

#### (2)講ずべき施策に関する基本的方向

施策1：若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

施策2：とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる

施策3：とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす

#### (3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標

【施策1】 若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

##### ① 住み続けられる住宅・環境を確保する【重点施策】

若い人たちが就職や結婚などライフステージの変化によって、住まいを検討する際に希望する住宅環境が豊明市にあり、いつまでも豊明市に住み続けられるように、更には、市外の方からも移住先には選ばれるように必要な新市街地の整備や既存住宅の活用を推進します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○住居系市街地の整備促進事業	前後駅周辺(500m 圏内)の居住人口	5,921人 (※H22 国調ベースで算出)	6,100人
○同居リフォーム促進事業	補助件数	0件	30件

○親との同居・近居購入費補助事業	補助戸数	0件	60件
○空き家リフォーム促進事業	補助件数	0件	4件
○大学等入学支援金給付事業	補助人数	0人	60人

**【施策2】 とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる**

① 古戦場を活かしたまちづくりの推進

豊明市には、大軍を率いた駿河の今川義元を尾張の織田信長が少数の軍勢で本陣を強襲し、今川義元を討ち取ったことで有名な国指定史跡桶狭間古戦場伝説地があります。この桶狭間古戦場を活かした観光施策を実施し、観光客の増加を推進します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標K P I	現状	目標(H31)
○史跡を活用した観光拠点整備事業	観光ガイドの年間利用客数	11,000人	15,000人
	観光関連ウォーキングの年間参加者数	3,000人	3,500人
○桶狭間古戦場まつり開催事業	来場者数	30,000人	32,000人

**【施策3】 とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす**

① 花の街プロジェクトの推進

豊明市には、アジアで最大の鉢物取引量を誇る「愛知豊明花き市場」があり、豊明市商工会を中心に、花をテーマにしたまちづくりを行政・地元企業と一体となって「花の街とよあけ」を推進しまちの魅力を高めます。

具体的事業の一例	重要業績評価指標K P I	現状	目標(H31)
○花の街とよあけの推進強化事業	講習会等の参加者数	100人	200人
○花のふるさと納税事業	ふるさと納税に対する花の送付件数	0件	250件

② とよあけの魅力を発信する

豊明市の魅力を多くの方に広めるために、市公式ホームページのスマートホン対応や、観光Webサイトの整備など時代に適した情報提供を推進します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標K P I	現状	目標(H31)
○観光情報発信事業	観光ウェブサイトの年間閲覧件数	0件	2万件
○市ホームページリニューアル事業	市公式ウェブサイトの年間閲覧件数	19万件	36万件

### 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### 子どもの学びと育ち創生プロジェクト

#### 教育環境を整え、子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

##### (1)基本目標の概要

若い人の出産に対する希望を叶えるため、男女が出会い、子どもが生まれ、健やかに育つ環境を整備する。

仕事と子育てを両立し、女性が活躍できる場を増やすなど地域一体となり子育てを見守り支えるまちづくりを推進する。

また、子どもの教育の面でも教育の機会の充実を図り、親が安心して働ける環境を整備する。

指標	基準値	目標値(H31)
0～14歳の子どもの数※	9,749人	10,011人
豊明市の出生率(人口1,000人に対する出生数)※	8.1人	8.8人
合計特殊出生率	1.42	1.53
子育てが楽しいと思っている市民の割合※	84.5%	88.8%
職場で働きやすいと思っている女性の割合※	35.4%	45.4%

(※：第5次豊明市総合計画のまちづくり指標を用いています)

##### (2)講ずべき施策に関する基本的方向

施策1：子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

施策2：子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる

施策3：女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる

##### (3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標

###### 【施策1】子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

###### ① 仕事と子育ての両立ができる環境をつくる

安心して出産できる環境を整えるため、妊娠・出産・子育て期と切れ目の無い子どもと家族の支援を実施します。また、病後児保育、駅前保育など、様々なニーズに合わせた支援体制を整備します。

また、男性の育児参加への啓蒙や、市内での育児休業、介護休業等休業制度の啓発を図り、女性が出産後も仕事と子育てを両立できるような環境をつくりまします。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○病後児保育事業	病後児の預かり登録人数	0人	200人

○ネウボラ事業 (妊娠期から子育て期まで切れ目の無い支援を実施。要支援者については、「支援プラン」作成する。)	支援プラン作成件数	0件	100件
○産後ケア事業、産婦健診助成事業	産婦健診助成事業による受診率	0%	95%
○駅前保育実施事業	前後駅前での保育施設数	0施設	1施設
○男性向け子育て講座事業	パパ向け教室の実施回数	0回	1回

② 男女の出会いの機会を創出する

若い人の結婚、出産の希望を叶えるための第一歩として、男女の出会いの機会を創出します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○婚活支援事業	婚活イベントの参加者数	65人	400人

**【施策2】子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる**

① 地域ぐるみで子どもを育て見守る環境をつくる

両親が働く子育て家庭をはじめ、放課後の子どもたちの安全安心な居場所づくりを実施します。運営には、地域の人や企業、保護者などが関わり、地域ぐるみで子どもを育て見守る環境を整備します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○放課後子ども教室事業	放課後子ども教室実施校数	5校	9校
	放課後子ども教室ボランティア数(人(団体))	18人	40人

② 地域の特色を活かした教育を充実させる

教育の機会や特色のある教育を充実させることで、生きるための学力を向上させ、子どもの教育の面でも女性が安心して働けるような環境を整えます。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○土曜学習実施事業	土曜学習参加者数	0人	60人
○英語活用能力アップ事業	イングリッシュキャンプの参加者数	0人	40人

**【施策3】女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる**

① 職場で女性の活躍の場を増やす

出産を機に離職した、又は、出産後に働く意思のある女性を対象に、女性活躍の模範となる成功事例の紹介や、気軽に集まって経験談を共有したり、相談したりできる機会を作るなど、社会進出への意識の高揚を図ります。

また、保育士や看護師などの有資格者に対しては、大学等と連携した復職プログラムを実施する等、ブランクがあっても職場へ復帰できるよう支援します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○女性の復職支援プログラム事業	復職プログラム受講者数	0人	40人
○女性活躍セミナーの開催事業	セミナー等参加者数	0人	20人



## 4. 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

### 暮らしの満足創生プロジェクト

#### 医療環境、公共交通などを充実し、暮らしの満足度の高いまちをつくる

(1)基本目標の概要		
鉄道駅を拠点に日常生活に求められる機能がコンパクトに集約したまちづくりを推進するとともに、医療・介護・福祉環境や公共交通網が整備された、安心して暮らし続けることができる環境を整備する。		
指標	基準値	目標値(H31)
医療や福祉施設、制度の利用者の満足度※	49.6%	58.9%
市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合※	59.3%	66.5%
自分達の考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合※	11.1%	22.2%

(※：第5次豊明市総合計画のまちづくり指標を用いています)

(2)講ずべき施策に関する基本的方向
施策1：市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する 施策2：自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる

(3)具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標			
【施策1】 市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する			
① 多様な主体者が連携して、行動できる環境をつくる			
豊明団地内において、市役所・藤田保健衛生大学病院・UR都市機構の産官学の連携により拠点を整備し高齢者等の生活支援や、ICTを利用した医療・介護体制など多くの主体者と連携し、先進的な取り組みを行います。			
具体的事業の一例	重要業績評価指標KPI	現状	目標(H31)
○いきいき笑顔ネットワーク事業 (市と病院、ケースワーカー等が高齢者の医療・介護等に関する情報をICTネットワークで情報共有・意見交換する包括ケアネットワーク事業)	ICTで情報共有できている患者(高齢者)の数	392人	600人
○けやきいきいきプロジェクト事業 (UR都市機構団地を活用し、産官連携のもと地域包括支援センターブランチなど、医療・福祉・高齢者等の生活拠点を整備、運営する。)	高齢者等の年間相談件数	0件	500件

**【施策2】 自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる**

① 拠点駅機能を強化する

名鉄前後駅前において、商業活性化イベントの開催や公共施設などを整備し、駅周辺の賑わい創出や都市機能の強化を推進します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○駅前賑わい創出事業 (マルシェ等の開催)	マルシェの参加出店数	0 店	80 店
○前後駅周辺の都市交通機能、住民サービス機能、市民交流機能等の充実事業	証明等交付件数のうち駅前市役所出張所での交付割合	0%	20%

② 生活拠点が整った持続可能性の高い街が形成される

便利で安心した生活の基盤となる医療施設の充実、公共交通の空白地を埋めるひまわりバスなど検討、有事の際にしっかりと使える場所に A E D の設置など暮らしの基礎を高めます。  
 また、生活の基盤となる地域のコミュニティ、地域の N P O の支援も継続して実施します。

具体的事業の一例	重要業績評価指標 K P I	現状	目標 (H31)
○医療施設の充実事業	小児科、産婦人科の施設数※	3 施設	4 施設
○地域公共交通の利便性向上事業	ひまわりバスの年間乗車客数	15 万人	17 万人
○コンビニ A E D 設置事業	24 時間営業のコンビニの A E D 設置率	0%	100%
○まちづくり N P O 支援事業	市民・コミュニティ提案型まちづくり事業の年間支援件数	6 件	16 件

# 豊明市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）素案

## 人口ビジョン

### 人口減少問題の克服

#### 長期的な見通し

2060年に人口61,000人を確保する

#### ◆人の流れを変える

＜人口の流出に歯止めをかけ、流入を目指す。＞

- ・新たな住宅供給などによる、若いファミリー世代の人口流出を抑制
- ・立地環境を活かした住宅供給による人口流入

#### ◆出生率を向上させる

- ＜2040年までに1.8へ上昇。＞
- ・若い世代が安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実
- ・若者が地元で安心して働き暮らせる環境の充実
- ・女性が出産・子育てをしながら働き活躍できる社会づくり

#### ◆活力ある地域をつくる

- ＜選ばれたままになるために、まちの魅力を高める＞
- ・子育て世代と高齢者の双方にとって誇りや生き甲斐につながる「学びのまち」の推進
- ・次世代の人材・企業育成や産業誘致による地域産業の活性化
- ・駅前等の生活利便施設の充実や賑わいの創出とまちの魅力の発信

## 総合戦略（平成27年度～平成31年度5カ年）

【国の基本目標：地方における安定した雇用を創出する】

### 基本目標① しごとと活力創生プロジェクト

～若者が働きがいを感じる企業が多いまちをつくる～

【数値目標】

- ・法人市民税額 (699,370千円) ・起業、創業件数 (100件)
- ・市内就業者のうち市内在住者 (1,775人)
- ・市民のうち市内で働きたいと思う若者の割合 (55.8%)

＜施策1＞地域の経済活動が盛んなまちをつくる

- ①魅力ある職場づくりを推進する
- ②産業の活性化を図る(重点施策)

＜施策2＞若い人たちの地元での就労を促進する

①若い人たちと企業をつなぐ仕組みをつくる

【具体的事業の一例】

- ・後継者育成・マッチング事業 ・起業、創業支援事業
- ・空き店舗を活用した活性化事業 ・市内中小企業の人材育成支援事業
- ・企業立地支援事業 ・道の駅設置検討事業 ・ブランドづくり開発事業
- ・職場体験事業 ・インターンシップ支援事業 ・市内企業への就職活動支援事業
- ・社宅整備等企業支援事業 など

【国の基本目標：地方への新しい人の流れをつくる】

### 基本目標② ひとが集うまち創生プロジェクト

～誰もが訪れたい、住みたいと思えるようなひとが集う魅力あふれるまちをつくる～

【数値目標】

- ・転出者数 (年間2,996人) ・転入者数 (年間3,626人)
- ・桶狭間古戦場関連の観光客数 (年間50,500人) ・ふるさと納税額 (5,000万円)
- ・市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数 (148件)

＜施策1＞若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

- ①住み続けられる住宅・環境を確保する(重点施策)
- ②とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる

＜施策2＞とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす

①桶狭間古戦場を活かしたまちづくりの推進

＜施策3＞とよあけの魅力発信する

①花の街プロジェクトの推進

②とよあけの魅力発信する

【具体的事業の一例】

- ・住居系市街地の整備促進事業 ・同居、空き家リフォーム促進事業
- ・親との同居・近居住宅購入補助事業 ・大学等入学支援金給付事業
- ・実働を活用した観光拠点整備事業 ・桶狭間古戦場まつり開催事業
- ・花の街とよあけ推進強化事業 ・花のふるさと納税事業
- ・観光情報発信事業 ・市HPリニューアル事業 など

【国の基本目標：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかえなえる】

### 基本目標③ 子どもと育ち創生プロジェクト

～教育環境を整え、子どもを安心して産み育てられるまちをつくる～

【数値目標】

- ・0-14歳の子どもの数 (10,011人) ・出生率 (8.8%)
- ・合計特殊出生率 (1.53) ・子育てが楽しいと思っている市民の割合 (88.8%)
- ・職場で働きやすいと思っている女性の割合 (45.4%)

＜施策1＞子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

①仕事と子育ての両立ができる環境をつくる

②男女の出会いの機会を創出する

＜施策2＞子どもが地域とつながり、大人になったときに地域で活動できるまちをつくる

①地域ぐるみで子どもを育てて見守る環境をつくる

＜施策3＞女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる

①職場で女性の活躍の場を増やす

【具体的事業の一例】

- ・病後児保育事業 ・ネウボラ事業 (妊娠前から子育て期まで切れ目のない支援)
- ・産後ケア事業、産婦健診助成事業 ・駅前保育実施事業
- ・男性向け子育て講座事業 ・婚活支援事業 ・放課後子ども教室事業
- ・土曜学習実習実施事業 ・英語活用能力アップ事業
- ・女性の優職支援プログラム事業 ・女性活躍セミナー開催事業 など

【国の基本目標：時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する】

### 基本目標④ 暮らしの満足創生プロジェクト

～医療環境・公共交通などを充実し、暮らしの満足度の高いまちをつくる～

【数値目標】

- ・医療や福祉施設、制度の利用者の満足度 (58.9%)
- ・市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合 (66.5%)
- ・自分達の考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合 (22.2%)

＜施策1＞市民が安心できる医療や福祉の拠点を多様な主体で連携して実行する

①多様な主体で連携して、行動できる環境をつくる

＜施策2＞自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる

①拠点駅機能の強化

②生活拠点が整った持続可能性の高い街が形成される

【具体的事業の一例】

- ・いきいき笑顔ネットワーク事業 (ICT 包括ケアネットワーク事業)
- ・けやきいきいきプロジェクト事業 (豊明回りの医療・福祉・高齢者の拠点整備)
- ・駅前賑わい創出事業 ・前後駅周辺の都市機能充実事業 ・医療施設の充実事業
- ・地域公共交通の利便性の向上事業 ・コンビニEAT設置事業
- ・まちづくりNPO支援事業 など

委員創生事業提案(上乘せアイデア提案及び事業提案)一覧

	事業名	事業(アイデア提案)内容	総合戦略の関連創生事業
1	豊明団地における地域医療介護連携拠点等整備事業	住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向け、医療機関・介護事業者との連携を強化し、急性期医療から地域医療・介護へのスムーズな移行を図る必要がある。このため、地域医療介護連携拠点として、豊明団地内に、地域医療連携センター及び地域包括支援センター(ランチ)を整備するため、センター街区にある既存の集会所棟を改修する。 (改修内容)・ELV設置・バリアフリー化・耐震改修・集会所等移設等	・けやきいきいきプロジェクト事業
2	☆市民総活躍☆ 天下取り大作戦	桶狭間古戦場、鎌倉街道、東海道、二村山、勅使池、等 歴史ある名所旧跡をバックに産学民の連携の元、官民をあげての積極的な全国発信タイプの事業を展開する。商店、事業者、学校、区、一般市民に必ず何かひとつ活躍できることを協力依頼。マスコミ、ネット、SNS 等を利用して一般的な企画のように堅くならないようにギャグっぽく面白くプロデュースする。但しターゲットが多すぎて全部中途半端に終わる危険性がある。その場合はどれかに絞って特化事業とする。	・ブランドづくり開発事業 ・史跡を活用した観光拠点整備事業 ・観光情報発信事業
3	宅地開発	比較的駅から近い区域で住宅やマンションの分譲を行う。市から転出する主な理由が市内に希望する価格の土地や住宅が見つらなかったことから、区画整理事業等による宅地開発を行うことで、住環境の整備を図る。	・住居系市街地の整備促進事業
4	日本版CCRC形成による高齢化社会に対応した街づくり	豊明市には国内最多規模の病床数を誇る藤田保健衛生大学病院があるため、同大学病院を中心とした日本版CCRCを形成し、高齢者が健康・活発的に生活できる『まちづくり』を目指す。日本版CCRCは高齢者が地域社会において健康で活発な生活を送るとともに、医療介護が必要ときには継続的なケアを受けることができる仕組みである。安心を求めた高齢者やその家族の移住、高齢者向け施設の勤務者が流入し、住居建設を進めることで一つの「まち」が形成できる。このような「まち」には医療・介護周辺産業の創出による地域インフラを構築し、街全体で高齢者を見守る仕組みづくりが重要である。そのため藤田保健衛生大学医学部地域老年科教授である岩尾聡士氏が提唱する『ヘルスケアインベーションIWAOモデル』の導入を推薦する。 また、「まち」の形成に伴い、物販や飲食店の集積が必要となり、物販や飲食店を起業したい事業者への支援を行う。(別提案)	・けやきいきいきプロジェクト事業
5	起業・創業者向け支援について	地域経済活性化のためには既存産業の発展も必要であるが、起業・創業者の育成が大切である。起業・創業者の多くが、物販・飲食・サービス業等であることから、上記の「まち」で起業した事業者向けの支援ファンドを設定する。御市は全国でも数少ない市民ファンド(太陽光発電事業)を組成した自治体であり、市民との距離も近く、そのファンド組成ノウハウを有することから可能であると思料する。	・起業・創業支援事業
6	駅前保育所の設置及び保育園児保育者への駅周辺の駐車場優先、駐車料金の助成	女性の働きやすい社会の構築のために、駅前保育所の考え方を推進する必要があるが、用地や経費、人材確保などのハードルが高い。また駅前で預かった子を各保育園に車で送迎する自治体もあるが、0歳児～2歳児などは人手を要するので現実的ではない。また駅前で子どもが預けられるとしても、駅までの公共交通網も十分でなく、ほとんどの保護者は車を使って駅まで行くことになり、そのための駐車スペースも必要となる。そう考えると、保育所をえて駅前で作らなくても、「自宅→保育園→駅」のルートを確認できれば同じことである。そこでまず、0歳児～2歳児保育園児保育者への駅周辺の駐車場優先、駐車料金の助成を行う。 ◆市のメリット 経費が安く済む ◆保護者のメリット 勤時間の短縮、経路の確保 ◆子どものメリット 学区の保育園に通園でき、地域での友だち関係ができる。	・駅前保育事業 ・駅前周辺の都市機能充実事業
7	桶狭間古戦場知名度向上事業	1. 豊明市内で「あなたの桶狭間の戦い」という体験談(スポーツでも仕事でも)を募集し、それを市内の小中学生に配布する。(少数で大きな相手と戦った、何か大きな事業のスタートとなった、新たな戦術を生み出した、など) 2. 勝利ということで、受験や、起業などのお守りをつくる	・ブランドづくり開発事業 ・観光情報発信事業
8	ママサロン	子育てで仕事を中断した女性に対して次のステップに進むきっかけや交流の機会を設ける。	・女性活躍セミナー開催事業
9	戸建て住宅団地の再生	◆駅への利便性の良い地域にモデル地区指定し、空き家の実態調査をする。平成24年度の国土交通省「地方公共団体における空家調査の手引き」を参考に空き家の実態調査を行う。地域との協力が必須となるので、駅への利便性の良い地域にモデル地区の指定も考えられる。地域にもかかわっていただくことで市民の問題意識が広がる。 ◆売却を目的とした、空き家を撤去した場合の固定資産税の軽減	・空き家対策の検討事業(※)
10	駅前の再開発活性化	再開発や、空き店舗の利用など何かしらの取り組みができないか。市内には看護や保育に携われるような人材(学生等)が多数存在しているので、その人々を上手く活用した豊明市ならではの取組みをしてはどうか。	・空き店舗を活用した活性化事業 ・前後駅周辺の都市機能充実事業
11	鉄道駅前機能の充実	鉄道駅前に、現在の店舗・カフェに加えて、地域の生産物を扱う店舗の増加、子育て支援・住宅斡旋・高齢者クラブ・若者クラブ・市やバス路線など様々な情報を得られる場・展示スペース・などを設ける。また、駅に近い利便性を求める高齢者向け住宅・家族向けマンションなどを供給する。	・前後駅周辺の都市機能充実事業 ・住居系市街地の整備促進事業 ・駅前保育事業 など
12	パルネスを利用した駅前活性化	市の事業ではないので希望として ・パルネスの営業時間を延ばす。(地下の食料品売り場だけでも) ・パルネスの駐車場から駅へ繋がる通路を新設する。 (駅まで車で行こうと思った時、パルネスの営業時間外に利用するのが大変不便)	・前後駅周辺の都市機能充実事業
13	若年世代の起業・在宅ワーク等支援事業	パルネス前後の店舗階に1区画10m程度の貸オフィス数区画と20～30㎡の貸会議室を設け、サテライトオフィスとして低廉な賃料で貸与。また、UR賃貸住宅と貸オフィスのセット供給も図り、若年世代の起業や在宅ワーク等を支援する。 ◇成果指標(KPI)：(未定)	・空き店舗を活用した活性化事業

委員創生事業提案(上乘せアイデア提案及び事業提案)一覧

	事業名	事業(アイデア提案)内容	総合戦略の関連創生事業
14	駅前子育て女性の職場復帰・社会進出等支援事業	名鉄を利用して市外に通勤する(したい)子育て世帯をターゲットとして、パルネス前後の店舗階に「託児所」・「保育園」・「病後児保育室」・「小児科」・「小児歯科」などの子育て支援機能をまとめて誘致。更に、パーク&ライド用の駐車場もセットにした「パーク&ライド付き託児所(保育園)」として利便性を高め、子育て女性の職場復帰・社会進出を支援する。◇成果指標(KPI)：(未定)	・駅前保育事業 ・駅前周辺の都市機能充実事業
15	駅中保育等子育て実施について	・駅ナカ保育所の開設→子供を預けて通勤できる送迎時間の短縮 ・ベビーシッターの補助金(チケット発行等)→ワンポイント利用可能→子供を連れて用事等への短時間預け→自分たちの時間が確保 ・男性育休取得者増進→例、助成金 ・循環バスの時間延長および運転間隔の短縮→利便性の向上	・駅前保育事業 ・駅前周辺の都市機能充実事業
16	観光ルートの整備開発	近年ハイキングが盛んになってきている。駅から見物ポイントを巡るルートを設定する。その間に、食事の場・名物食材・お土産なども織り込んで示す。高齢者対象に限らず、若い層にも対応する商品の開発・実演もおこなう。単に、見学と買い物に終わることなく、それぞれの場ごとに休憩スペースもデザインして設ける。レンタル自転車で巡ることも考えられるし、駅前などでは、日常の市内の生活が体験出来ることにより、定住に結びつくことも考えられる。観光であっても、日常の生活が良いまちであること。(ところで、「桶狭間グリーン」というインクを名古屋の万年筆店が出しているのをご存じですか。)	・史跡を活用した観光拠点整備事業 ・駅前周辺の都市機能充実事業
17	ふるさと納税花送付事業	ふるさと納税で、花を贈る。 送り先や日にちを指定できるようにして、記念日のプレゼントにできるようにする。(母の日は除く)鉢植えの花は、大きな段ボールで届くので豪華に思える。	・花のふるさと納税事業
18	地名を利用した活性化事業	●広島県府中市に「上下」という駅がある。こことコラボした企画はできないか。 ●豊明市内の商店街の抽選に前後賞を設けるようにする。 特に、前後賞の方により賞品が付くようにしてもいい。	・イベント創出事業(※)
19	桶狭間の歴史体感事業	・実空間と仮想空間の複合型観光を体験。ウェアラブル眼鏡で3Dによるリアルを体験できる。事前に仮想画像を作成し、スマートグラスを通して実空間に居ながら、過去と現在の双方を同時に体感できる。古戦場のような有形物が残っていない歴史的遺産には最適の素材と考えられる。 *本年度から開発されて全国的にも注目され始めている。江戸城と日本橋めぐり、福岡城などの実績がある。 *旅行会社とタイアップしてツアー募集が可能。 ・桶狭間の合戦だけにとどまらず、「歴史を学ぶ街・豊明」として、年間を通して戦国時代を中心とした公開講座、シンポジウム等を開催し、文化を育てる。	・史跡を活用した観光拠点整備事業
20	花の街・とよあけ推進事業	・花の街のイメージづくりのために駅前、市役所などを、見て楽しむためにわざわざ訪れるくらいの規模で花いっぱい街に作り上げる。 ・全国で花をウリにしている自治体と共同で「花サミット」を開催して、全国的にイメージアップを図る。 ・各家庭でガーデニングを楽しめるように、先ずはその講習会から初めて、各家庭が美しいガーデンを競うようなコンテストを行う。他の地域からも訪れるようなイベントに仕上げて行く。 ・花卉市場をもっとPRし、一般市民及び来訪者が来易いイベントを開催する。	・花の街とよあけ推進強化事業 ・イベント創出事業(※)
21	フローラルウォーク等を活用したイベント事業	中京競馬場前駅から競馬場まで続くフローラルウォークにフリーマーケットや飲食の出店などを競馬開催日に並べる。豊明市の出展者を優先し、豊明市の玄関口である中京競馬場から魅力を発信する。名古屋競馬株式会社、中京競馬場の協力が必要。同時に駅前の再開発を敢行し、人を惹きつけるエリアにするとともに地元商店街にも利益を還元する。沿道市民の理解を得るための仕掛けも考えていく。	・中京競馬場を利用した花マーケット等の開催事業(※)
22	農地保全再生事業	豊明市内農地(豊明市北部：市街化調整区域)で特定の農地を選定する。農地所有者と集団化を促進するための交渉をおこなう。集団化することで、相当の耕作面積になり、規模の拡大により農作業の効率を高めることができる。同時に、豊明市内で農業を営む意思のある会社を選別し誘致をすすめる。農地の運用において、個人農家から資本を持つ会社へ営農の移譲を推進する。会社の研究開発において、新たに豊明市固有の特産農産物を創出し、その栽培拠点にできれば、より活性化に繋がる。また、この土地の地目は雑種地とせず農地のままなので、固定資産税も低額に抑えることができ、農地所有者のメリットもある。併せて、所有者にとっては、農地の賃貸料として収入も得ることができる。なによりも、豊明の農地を農地として運用をすることができ、土地活用・雇用促進にも繋がる可能性もある。少なくとも農業の先細りを回避するための施策のひとつには成り得ると考える。 10年後の農業・農地は、いずれも縮小していくものと思われる。土地活用の側面から、農地は農地、宅地は宅地として、所有者も運用は二分化して考慮する必要がある。名古屋周辺都市型農業におけるカテゴリーとして、農地運用には一定のガイドラインを設けるべきと考える。	・新規就農者の受け入れ事業(※)
23	空き家、空地の活用事業	空き家・空き地の情報の集約化と活用の検討をする。 まちのビルトアップされた後の姿を、市が描いて提示する地区の計画を示す。それを踏まえて、空き地・空き家・空き店舗を、所有者から市かNPOが委託され、必要とする個人・団体に貸し出す斡旋を行う。主要には、地域の子どもの遊び場、花卉園芸の場、高齢者などの集会施設、カフェなど、コミュニティ活動の場として活用されることが望ましく、地域貢献する一定の条件を備えた場合には、市の補助金制度を設ける。	・空き店舗を活用した活性化事業 ・空き家対策検討事業(※)

委員創生事業提案(上乘せアイデア提案及び事業提案)一覧

	事業名	事業(アイデア提案)内容	総合戦略の関連創生事業
24	空き家への住み替え(賃貸)支援事業	郊外から便利の良い街なかへの転居を検討する高齢者が所有する住宅や空き家となっている住宅を子育て世帯等に貸し出すことで住み替えを促し、住宅の有効活用や子育て支援、地域コミュニティの活性化を図る。	・空き家リフォーム促進事業
25	環境共生の住宅・交通システムのモデル地区事業	町を形成する規模の地区を設定し、その中に、自然エネルギーを活用した住宅、これからの交通システム、情報を活用して生活できるシステムなど、将来的な環境共生住宅地のあり方を盛り込んだ開発を、地域の大学や民間の研究成果・技術を活用して行う。完成後は、見学会などを行い、成果を市全体の住宅に還元する。また、設備・施工などの情報提供を行う。住宅としては、ハイテクの設備を利用したタイプでも良いが、在来工法・材料により自然のエネルギーを利用したパッシブでローテクな住宅の方が耐久性があると考えられる。	・住居系市街地の整備促進事業 ・再生可能エネルギー推進事業
26	高齢者や低所得者への住宅支援事業	高齢者の住宅リフォーム、低所得者に対する家賃補助を実施する。在宅高齢者の住宅を無料でバリアフリー改修する制度。借家居住者において、支出に占める住居費が一定比率を超えた場合の、超過分の公的家賃補助。	・社宅整備等企業支援事業 ・空き家リフォーム促進事業
27	物流拠点等の誘致整備	名古屋と三河をつなぐ地理的要因や交通利便性をアピールすることで、昨今物流施設の大型化・複合化が進む物流企業の誘致を図り、中部の物流拠点(ハブ拠点)としての整備を目指す。ヤマト運輸の羽田クロノゲートのような視察や見学のできる施設を目指し、施設を核とした観光振興も同時に図る。 ◇成果指標(KPI) 進出企業件数、視察件数、固定資産税・都市計画税、法人市民税	・企業立地支援事業 ・史跡等を活用した観光拠点整備事業
28	地域の特性を活かしたスポーツ文化講座の開設充実	ヨーロッパでは郊外には乗馬教室があり、小学生から通っている。郊外にある本市の特長を生かした文化・スポーツを解説・充実する。中京競馬場がありながら、市とは離れたイメージを持つので、競馬場に併設したり、市の自然が豊富な地区に施設を設けて資産を活かしていく。また、池を利用した、ボート・カヤック・ヨットなどのスポーツも考えられる。ヨットは、ヨーロッパでは一般的である。釣りやキャンプも、開催したい。花卉の観賞や園芸の要望も強くなるため、催事・教室も盛んにする必要がある。	・地域の特性を活かしたスポーツ、文化講座の開設、充実事業(※)
29	車によらない交通方法の開発	名鉄バス、市のコミュニティバスで共同して、どこに居住していても利用可能なルートと運行時間とする。バスの運行状況を認識し、表示、待ち時間を把握できる停留所とする。バス停のデザインも良くない。運賃体系は、ゾーン内・時間内であれば一定とする。また、主要な道路においては、自転車道を専用で設ける。歩道とは独立して自然の中を走っても良いが、人の目が多いルートとする。買い物や通勤が多い道路では、車が入れない歩行者専用広場・地区を設定する。このような地区を設けることにより、人が集まり、憩い、買い物が盛んになる。	・地域公共交通の利便性向上事業
30	高齢者向け住宅施設の供給促進	生活を保障する市が、市内の高齢者が居住する住宅の基準・必要設備を設定する。それを踏まえて、URは高齢者向け住宅の整備を行う。また、市が設定するレベルの高齢者住宅(サービス付き高齢者住宅)を地域の業者が供給する。さらに、社会福祉法人をはじめとして居住施設の供給を促進する。	・けやきいきいきプロジェクト事業
31	公的住宅団地の機能拡充整備事業	団地を改修して高齢者向けのバリアフリーの建物とする。高齢者の生活をサポートする福祉施設や集会所・食堂などの店舗の充実と運営・見守る人的な整備も行う。団地内に設ける施設・店舗は、団地ばかりでなく、周辺の高齢者をはじめ、すべての世代の居住者に開放し、地域の生活拠点とする。このような団地内・周辺の施設・店舗で働く若い世代を集め、同時に、そうした若い世代が入居できる住宅への改修を行い、世代のミックスを図る。若い世代に対しては、子育て相談・保育所や、帰宅後の学童保育所、学習支援施設を設ける。これらは、地域の大学、NPOなどと協力して実施する。	・けやきいきいきプロジェクト事業 ・病後児保育事業
32	豊明・健康長寿ささえ愛タウン計画	①健康長寿スマート団地：UR豊明団地の低層住宅を健康サポート住宅として整備、要介護でも家庭内ロボットとICTを導入し医療・介護を連結したスマートホームの設置 ②地域サロン+まちかど保健室：市内外に30カ所保健室設置、③市内の移動支援：バス、タクシーなどの経路、トヨタロボット、④藤田保健衛生大学による市民健康調査、⑤健康活動インセンティブポイント付与、⑥市外、県外、海外からの医療ツアー、⑦大規模災害支援拠点都市、⑧市内4,000戸の空家活用計画	・いきいき笑顔ネットワーク事業 ・けやきいきいきプロジェクト事業 ・地域公共交通の利便性向上事業 ・空き家対策検討事業(※)
33	勅使池周辺施設の整備事業	子どもの遊び場と産直などを併設した施設をつくる 勅使会館周辺に子どもの遊具と駐車場を整備し、そこで産直市などを開く。 勅使会館の活用方を再考してはどうか。 勅使池が整備された今、勅使会館を特定の事業に使うのではなく、広く多くの人の集まる場所として活用する方がよいと思う。	・道の駅設置検討事業
34	企業の異業種交流会、経営塾事業	・若手経営者の啓蒙、異業種経営者間の協力による市内活性化のため、「異業種交流会」、「工業、商業経営塾」を開催 ・「豊明お出かけナイト」参画による既存、新規飲食業者の相乗効果拡大 ・ご当地グルメ「豊明ひきずり」の拡販推進による市内活性化、対外PR ・花き市場、前後・豊明駅、桶狭間古戦場、中京競馬場等を巻き込んだ「花の街とよあけ」の官民一体による対外PR ・大規模でなくても小規模地点在型の工業団地用地確保のための政治的推進 ・若者や子ども、お年寄りの両世代を重点に置いたまちづくりをし、中間世代も呼び寄せる。世は情報化社会なので積極的な対外発信を行う。 ・飲食店の活性化は、市民の憩いのバロメーター、人は美味しいものに寄ってくる ・基幹産業、小規模零細企業の持続発展、企業誘致により雇用創出、就労人口増	・工業経営塾の実施事業(※) ・花の街とよあけ推進強化事業 ・企業立地支援事業 ・ひきずり鍋の普及事業(※) ・市内中小企業の人材育成支援事業など